

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

遊技場に設置されている遊技機での遊技に関わる遊技データを管理する遊技データ管理手段と、

遊技データの集計期間を設定する集計期間設定手段と、

前記遊技データ管理手段で管理している遊技データに基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一であって前記集計期間設定手段により設定された集計期間における複数機種の遊技データを、当該複数機種間で比較可能に出力する出力手段と、

を有する管理装置であって、

各機種毎に、各機種の導入に関わる導入データを管理する導入データ管理手段と、

前記複数機種の中から、前記遊技データを他の機種と比較するターゲット機種の指定を受け付けるターゲット機種指定受付手段と、

前記導入データ管理手段で管理している導入データが前記ターゲット機種指定受付手段により指定を受け付けたターゲット機種と同一及び／又は近似している機種を抽出する抽出手段と、をさらに有し、

前記出力手段は、同一の前記集計期間における遊技データを、前記ターゲット機種指定受付手段により指定を受け付けたターゲット機種と前記抽出手段により抽出された機種について比較可能に出力することを特徴とする管理装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、遊技場に設置されている遊技機での遊技に関わる遊技データを管理し、該管理している遊技データに基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における複数機種の遊技データを、当該複数の機種間で比較可能に出力する管理装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来より、特許文献 1 に示すように、遊技場に設置されている各遊技機の遊技データを管理し、該遊技データを、各遊技機が遊技場に導入された日から所定期間経過した時点で機種毎に集計し、該集計した集計データのうち、各遊技機が遊技場に導入された日から同じ期間経過した時点の集計データを各機種間で比較可能に出力する管理装置が知られている。これによれば、集計データが、遊技機が遊技場に導入された日を揃えて所定期間を単位として各機種間で比較可能に出力されるので、あたかも新機種が同時に導入されたのと同じ条件で比較することができる。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2005 - 224424 号公報（図 7、請求項 1）

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、遊技場に導入する機種によって、該導入に関わる状況（例えば導入台数や導入シーズン等）は様々であり、上記特許文献 1 に示す管理装置は、該導入に関わる状況を加味せずに、集計データを各機種間で比較可能に出力するため、該集計データを適切に比較することができないという問題があった。

【0005】

本発明は、このような背景のもとになされたものであり、その目的は、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における複数機種の遊技データを当該複数の機種間で適切に比較することができるよう出力する管理装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本発明は、前記課題を解決するために、次のような手段を採る。なお後述する発明を実施するための最良の形態の説明及び図面で使用した符号を参考のために括弧書きで付記するが、本発明の構成要素は該付記したものには限定されない。

【 0 0 0 7 】

まず手段 1 に係る発明は、遊技場に設置されている遊技機（パチンコ機 1 0）での遊技に関わる遊技データ（アウト玉数）を管理する遊技データ管理手段（遊技情報 D B）と、遊技データの集計期間を設定する集計期間設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、前記遊技データ管理手段で管理している遊技データに基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一であって前記集計期間設定手段により設定された集計期間における複数機種の遊技データ（複数機種の各導入日からの遊技データ）を、当該複数機種間で比較可能に出力する出力手段（ディスプレイ 5 3）と、を有する管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、各機種毎に、各機種の導入に関わる導入データ（導入台数、スペック、メーカ、導入時期）を管理する導入データ管理手段（導入情報 D B）と、前記複数機種の中から、前記遊技データを他の機種と比較するターゲット機種の指定を受け付けるターゲット機種指定受付手段と（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）、前記導入データ管理手段で管理している導入データが前記ターゲット機種指定受付手段により指定を受け付けたターゲット機種と同一及び／又は近似している機種を抽出する抽出手段（制御部 5 2）と、をさらに有し、前記出力手段は、同一の前記集計期間における遊技データを、前記ターゲット機種指定受付手段により指定を受け付けたターゲット機種と前記抽出手段により抽出された機種について比較可能に出力することを特徴とする管理装置である。

10

20

これによれば、集計期間の設定を受け付け、ターゲット機種の指定を受け付けると、該ターゲット機種と導入に関わる導入データが同一及び／又は近似している他の機種が抽出され、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の前記集計期間における、前記ターゲット機種と前記他の機種との遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを適切に比較することができて、ターゲット機種の入替等の参考とすることができる。

【 0 0 0 8 】

また手段 2 に係る発明は、手段 1 に記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、前記導入データ管理手段（導入情報 D B）は、前記導入データとして、各機種の導入台数を管理し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該導入データ管理手段で管理している導入台数が同一及び／又は近似している機種を抽出することを特徴とする管理装置である。

30

これによれば、各機種の導入台数が同一及び／又は近似している機種について、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入台数の参考とすることができる。

【 0 0 0 9 】

また手段 3 に係る発明は、手段 1 又は 2 に記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、前記導入データ管理手段（導入情報 D B）は、前記導入データとして、各機種の導入時期を管理し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該導入データ管理手段で管理している導入時期が同一である機種を抽出することを特徴とする管理装置である。

40

これによれば、各機種の導入時期が同一である機種について、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入時期の参考とすることができる。

【 0 0 1 0 】

また手段 4 に係る発明は、手段 1 ～ 3 のいずれか 1 つに記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、遊技場で開催されるイベントについて、該イベントが開催されるイベント期間を設定するイベント期間設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、前記同一の期間における遊技データ（導入日からの遊技データ）からイベント期間中における遊技データを除外するイベントを設定する除外イベント設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該除外イベント設定手段により設定されたイベントのイベント期間中における遊技データを除

50

外して、前記同一の期間における遊技データを出力することを特徴とする管理装置である。

これによれば、除外イベントのイベント期間中における遊技データを除外して、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、イベントの影響を受けていない遊技データに基づいて、より適切な比較を行うことができる。

【 0 0 1 1 】

また手段 5 に係る発明は、手段 1 ~ 4 のいずれか 1 つに記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、各機種毎に、遊技場に現在設置されている現在設置機種であるか、あるいは過去に設置されていた過去設置機種であるかを管理する設置状況管理手段（導入情報 DB）と、前記抽出手段（制御部 5 2）による抽出対象を、前記現在設置機種のみとするか、あるいは前記現在設置機種及び前記過去設置機種とするかを設定する抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記抽出手段は、該抽出対象設定手段により設定された抽出対象から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置である。

これによれば、前記同一の期間における遊技データを出力する機種として、現在設置機種のみを抽出対象とするか、あるいは現在設置機種及び過去設置機種を抽出対象とするかを設定することができるので、遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

【 0 0 1 2 】

また手段 6 に係る発明は、手段 5 に記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、前記設置状況管理手段（導入情報 DB）は、前記過去設置機種が設置されていた設置期間（導入日及び撤去日）を管理し、前記抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）は、抽出対象とする過去設置機種の設置期間を設定し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該抽出対象設定手段により設定された設置期間に設置されていた過去設置機種から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置である。

これによれば、抽出対象とする過去設置機種の設置期間を設定することができるので、より遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

【 0 0 1 3 】

さらに手段 7 に係る発明は、手段 1 ~ 6 のいずれか 1 つに記載した管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、各機種について、遊技場に導入されてから所定期間毎の遊技データを集計する遊技データ集計手段（制御部 5 2）と、遊技場に導入されてから最初の所定期間における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間における遊技データの比率を算出する遊技データ比率算出手段（制御部 5 2）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該遊技データ比率算出手段により算出された比率が遊技データの低下を示す機種について、当該比率を比較可能に出力することを特徴とする管理装置である。

これによれば、最初の所定期間における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間における遊技データの比率が、該遊技データの低下を示す機種について、当該比率が比較可能に出力されるので、遊技機の入替等の参考とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

【図 1】図 1 は本発明に係る管理装置であるホールコンピュータを含む遊技用システムの一例を表す機能ブロック図である。

【図 2】図 2（a）はパチンコ機及びカードユニットの一例を表す正面図であり、図 2（b）は同カードユニットの断面右側面図である。

【図 3】図 3 はホールコンピュータのディスプレイに表示される導入情報設定画面の一例を表す図である。

【図 4】図 4 はホールコンピュータのハードディスクで記憶している導入情報 DB の記憶内容の一例を表す図である。

【図 5】図 5 はホールコンピュータのディスプレイに表示される貸与単価設定変更画面の一例を表す図である。

【図 6】図 6 はホールコンピュータのハードディスクで記憶している貸与単価 DB の記憶内容の一例を表す図である。

【図 7】図 7 はホールコンピュータのディスプレイに表示されるイベント情報設定画面の一例を表す図である。

【図 8】図 8 はホールコンピュータのハードディスクで記憶しているイベント情報 DB の記憶内容の一例を表す図である。

【図 9】図 9 はホールコンピュータのハードディスクで記憶している遊技情報 DB の記憶内容の一例を表す図である。

【図 10】図 10 はホールコンピュータのディスプレイで表示される導入後遊技データ表示条件設定画面の一例を表す図である。

10

【図 11】図 11 はホールコンピュータのディスプレイで表示される導入後遊技データの一例を表す図である。

【図 12】図 12 はホールコンピュータのディスプレイで表示される減少率グラフの一例を表す図である。

【図 13】図 13 はホールコンピュータのディスプレイで表示される貸与単価変更後遊技データ表示条件設定画面の一例を表す図である。

【図 14】図 14 はホールコンピュータのディスプレイで表示される貸与単価変更後遊技データの一例を表す図である。

【図 15】図 15 は導入後遊技データ及び単価変更後遊技データに基づいて遊技場が行う処置の一例を表すフローチャートである。

20

【発明を実施するための形態】

【0015】

[1 . 本発明の実施形態]

以下、本発明の実施の形態を、図面を参照して説明する。本発明に係る管理装置（ホールコンピュータ 50）は、後述する図 9 に示すように、遊技場に設置されている遊技機（パチンコ機 10）での遊技に関わる遊技データ（アウト玉数）を管理するものである。

【0016】

そして管理装置は、後述する図 11 に示すように、前記管理している遊技データに基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における複数機種の遊技データ（ここでは複数機種の各導入日からの遊技データ）を、当該複数の機種間で比較可能に出力するものであり、特に該同一の期間における遊技データを、各機種の導入に関わる導入データ（図 4 を参照）が同一及び / 又は近似している機種について比較可能に出力する、導入後遊技データ表示処理を行うことを特徴とするものである。

30

【0017】

また管理装置は、後述する図 5 に示すように、遊技機での遊技に使用される遊技媒体（パチンコ玉）の貸与単価を各遊技機について設定変更可能であり、後述する図 14 に示すように、該貸与単価が変更されたことに基づいて、該変更が行われた変更対象遊技機の貸与単価変更前の変更前遊技データ及び貸与単価変更後の変更後遊技データと、少なくとも前記変更対象遊技機と同一の貸与単価が設定されている他の遊技機の遊技データを平均した平均遊技データとを比較可能に出力する、貸与単価変更後遊技データ表示処理を行うことを特徴とするものである。

40

【0018】

この管理装置であるホールコンピュータ 50 を含む遊技用システム 1 では、図 1 に示すように、遊技場内において、複数のパチンコ機 10 及び各パチンコ機 10 に対応して設けられるカードユニット 20 が、所定数（例えば 4 台）のパチンコ機 10 及びカードユニット 20 に対応して設けられる台端末装置 30 を介して、ホールコンピュータ 50 と通信可能とされており、また各カードユニット 20 が、台端末装置 30 を介して、残額管理装置 40 と通信可能とされている。

【0019】

この遊技用システム 1 では、遊技者に対して発行されたプリペイドカード 2 が使用され

50

る。このプリペイドカード 2 は、長方形状を呈するプラスチック製の薄板における所定の部位に、不揮発性の E E P R O M からなる記録領域を備える非接触式の I C チップが設けられている記録媒体 (I C カード) であり、当該プリペイドカード 2 を個々に識別可能な記録媒体識別情報であるカード I D が、 I C チップに記録されている。

【 0 0 2 0 】

また遊技用システム 1 に含まれる残額管理装置 4 0 は、遊技場内の所定箇所 (例えば管理事務所等) に設けられるコンピュータであり、記憶手段であるハードディスク (図示外) で残額 D B を記憶している。この残額 D B は、プリペイドカード 2 のカード I D に対応付けて、パチンコ玉の貸与に使用されるプリペイド残額を管理するものである。

【 0 0 2 1 】

以下、遊技用システム 1 の各構成要素について説明するが、以下においては、遊技機がパチンコ機 1 0 であり、遊技媒体がパチンコ玉である例について説明し、またリーダー/ライタを「 R / W 」, データベースを「 D B 」, ステップを「 S 」と略記する。

【 0 0 2 2 】

まず、パチンコ機 1 0 について説明する。パチンコ機 1 0 は遊技機の一例であって、遊技媒体であるパチンコ玉を遊技領域に打ち込むことにより遊技を行うものであり、ここでは対応するカードユニット 2 0 との間でパチンコ玉の貸与に関する信号のやり取りが行われて玉貸処理が行われる、いわゆる C R 式のパチンコ機である。このパチンコ機 1 0 は、遊技機 I D によって個々に識別可能とされている。このパチンコ機 1 0 が遊技場に導入されると、該パチンコ機 1 0 が属する機種や貸与単価等に従って、遊技場内の遊技島に配置される。この遊技島における配置箇所は、台番号によって個々に識別可能とされている。

【 0 0 2 3 】

ここでのパチンコ機 1 0 には、パチンコ玉の貸与単価が異なる 2 種類が含まれ、パチンコ玉 1 個あたりの貸与単価が 1 円である仕様のパチンコ機 1 0 及びカードユニット 2 0 を「 1 円貸し機」と称し、パチンコ玉 1 個あたりの貸与単価が 4 円である仕様のパチンコ機 1 0 及びカードユニット 2 0 を「 4 円貸し機」と称する。またパチンコ機 1 0 には、大当りの発生確率と該大当りにより払い出されるパチンコ玉の数である大当り出玉数とが異なる 2 種類が含まれ、比較的大当りが発生しやすいが大当り出玉数が比較的少ない仕様のパチンコ機 1 0 を「甘デジ機」と称し、比較的大当りが発生しにくいが大当り出玉数が多い仕様のパチンコ機 1 0 を「爆裂機」と称する。

【 0 0 2 4 】

このパチンコ機 1 0 は、図 2 (a) に示すように、その前面に遊技領域、上皿、下皿、及び発射ハンドル等を備えると共に、残度数表示器 1 4 , 玉貸ボタン 1 5 , 及びカード返却ボタン 1 6 を備え、図 1 に示すように、その内部に遊技制御基板 1 1 , 払出制御基板 1 2 , 及び玉払出装 1 3 等を備え、その背後にアウト玉タンク (図示外) に付設されたアウト玉計数機 1 7 を備えており、これらの各構成要素は図 1 に示すように接続されている。

【 0 0 2 5 】

遊技制御基板 1 1 は、パチンコ機 1 0 における遊技状態を制御するものである。払出制御基板 1 2 は、カードユニット 2 0 の後述する玉貸通信部 2 1 a と通信可能に接続され、パチンコ機 1 0 とカードユニット 2 0 との間における通信を司るものである。これにより、玉貸処理が行われる場合に、パチンコ機 1 0 とカードユニット 2 0 との間でパチンコ玉の貸与に関する信号のやり取りが行われる。また払出制御基板 1 2 は、玉払出装 1 3 と接続され、該玉払出装 1 3 を制御するものである。さらに払出制御基板 1 2 は、残度数表示器 1 4 , 玉貸ボタン 1 5 , 及びカード返却ボタン 1 6 とも接続されている。玉払出装 1 3 は、玉貸処理が行われて遊技者に貸し出されたパチンコ玉や、遊技の結果として遊技者に付与されるパチンコ玉 (いわゆる賞球) を払い出すものである。

【 0 0 2 6 】

残度数表示器 1 4 は、カードユニット 2 0 のカード R / W 2 3 にて受け付けているプリペイドカード 2 のカード I D に対応付けて残額管理装置 4 0 で管理されているプリペイド

10

20

30

40

50

残額に相当する残度数を表示するための表示器である。ここで残度数は、プリペイド残額が所定の比率で変換されたもの（例えば100円＝1度数）である。この残度数表示器14では、玉貸通信部21aから残度数を示す度数表示信号が入力されることにより、残度数が表示される。

【0027】

玉貸ボタン15は、前記プリペイド残額を使用して玉貸処理を行うための玉貸操作を受け付けるボタンである。この玉貸ボタン15が操作されたことにより、玉貸通信部21aに貸出入力信号が入力され、該入力の検出によってカードユニット20の制御部22が、玉貸ボタン15が操作された旨を認識する。

【0028】

カード返却ボタン16は、カードユニット20のカードR/W23にて受け付けているプリペイドカード2を該カードユニット20の外部に排出するための排出操作を受け付けるものである。このカード返却ボタン16が操作されたことにより、玉貸通信部21aに返却入力信号が入力され、該入力の検出によってカードユニット20の制御部22が、カード返却ボタン16が操作された旨を認識して、カードR/W23にて受け付けているカードの排出制御が行われ、該カードがカード挿入口23aから排出されて遊技者に返却される。

【0029】

このパチンコ機10において、玉払出装置13から払い出されたパチンコ玉は、上皿に供給され、発射ハンドルの操作により遊技領域の内部に打ち込まれて、遊技が行われる。ここで遊技領域に打ち込まれたパチンコ玉（以下、「打込玉」と称する。）が、遊技領域に形成された入賞口に入賞すると、払出制御基板12から発せられる払出信号に基づいて、賞球として玉払出装置13からパチンコ玉が払い出されて付与され、上皿又は下皿に供給される。そして遊技制御基板11から、賞球が10個付与される毎に1パルスのセーフ玉信号が出力される。また打込玉が始動入賞口に入賞すると、特別図柄可変表示装置において特別図柄の可変表示が開始され、該可変表示が終了すると、遊技制御基板11から、1パルスのスタート信号が出力され、可変表示後における特別図柄が所定の態様になると、大当りが発生する。また入賞口に入賞した打込玉及びいずれの入賞口にも入賞しなかった打込玉は、パチンコ機10の背後に設けられたアウト玉タンク（図示外）に導かれ、該アウト玉タンクに付設されたアウト玉計数機17で計数されて、遊技島内に設けられるパチンコ玉回収樋（図示外）に排出される。そしてアウト玉計数機17から、打込玉が10個計数される毎に1パルスのアウト玉信号が出力される。

【0030】

これらアウト玉信号、セーフ玉信号、及びスタート信号は、パチンコ機10の稼動中において出力される遊技データであり、台端末装置30に入力される。そして該アウト玉信号、セーフ玉信号、及びスタート信号が入力された台端末装置30では、アウト玉信号から特定されるアウト玉数、セーフ玉信号から特定されるセーフ玉数、及びスタート信号から特定されるスタート回数が集計され、該集計されたアウト玉数、セーフ玉数、及びスタート回数が、台番号と共に、所定のタイミングでホールコンピュータ50に入力される。そして該アウト玉数、セーフ玉数、及びスタート回数と台番号とが入力されたホールコンピュータ50では、後述する図9に示すように、当日の日付及び入力された台番号に対応付けて、入力されたアウト玉数、セーフ玉数（図示外）、及びスタート回数（図示外）が累積加算されて管理される。

【0031】

次に、カードユニット20について説明する。カードユニット20は、図1及び図2（a）に示すように、パチンコ機10に対応して（ここではパチンコ機10の左側に隣接して）設けられ、プリペイドカード2の挿入に基づいて玉貸処理を行い、プリペイドカード2が挿入されている状態における紙幣の挿入に基づいて入金処理を行うものである。

【0032】

このカードユニット20は、縦長の箱型の形状を呈するものであり、図2（a）に示す

10

20

30

40

50

ように、その前面に紙幣挿入口 2 4 a , 及びカード挿入口 2 3 a 等を備え、図 2 (b) に示すように、その内部に紙幣識別機 2 4 , 制御部 2 2 , 玉貸通信部 2 1 a , 台端末装置通信部 2 1 b , 及びカード R / W 2 3 等を備えており、これらの各構成要素は図 1 に示すように接続されている。

【 0 0 3 3 】

玉貸通信部 2 1 a は、パチンコ機 1 0 の払出制御基板 1 2 と通信可能に接続されており、台端末装置通信部 2 1 b は、台端末装置 3 0 と通信可能に接続されている。

【 0 0 3 4 】

制御部 2 2 は、CPU , RAM , ROM , EEPROM 等を備えており、ROM (あるいは EEPROM) に記憶されている処理プログラムが RAM を作業領域として CPU で実行されることにより、カードユニット 2 0 に備えられる各構成要素の動作を制御して、後述するように、玉貸処理や入金処理を行うものである。なお EEPROM は、当該カードユニット 2 0 が 1 円貸し機であるか 4 円貸し機であるかを記憶している。

【 0 0 3 5 】

カード R / W 2 3 は、カード挿入口 2 3 a から挿入されたプリペイドカード 2 を受け付けて、該プリペイドカード 2 の IC チップに記録されているカード ID を読み取るものである。このカード R / W 2 3 は、前記 IC カードであるプリペイドカード 2 の IC チップに対応した IC チップリーダである。

【 0 0 3 6 】

紙幣識別機 2 4 は、カード R / W 2 3 でプリペイドカード 2 の挿入を受け付けている状態で、紙幣挿入口 2 4 a から挿入され搬送されてきた紙幣 (1 0 0 0 円紙幣 , 2 0 0 0 円紙幣 , 5 0 0 0 円紙幣 , 又は 1 0 0 0 0 円紙幣) を受け付けて、該受け付けた紙幣の金種を識別する識別機である。この識別により、受け付けた紙幣が正規の紙幣であれば、識別結果 (識別された紙幣に応じた入金金額) を制御部 2 2 に出力する。そして識別が完了した正規の紙幣は、紙幣通路 2 4 b を通じてカードユニット 2 0 の背面から外部に排出され、遊技場に設けられた紙幣搬送機構 (図示外) により搬送されて、金庫 (図示外) に回収される。なお正規の紙幣ではないと識別した場合、及びカード R / W 2 3 でプリペイドカード 2 の挿入を受け付けていない場合には、受け付けた紙幣を紙幣挿入口 2 4 a から返却する。

【 0 0 3 7 】

このカードユニット 2 0 において、制御部 2 2 は、プリペイドカード 2 の挿入に基づいて、玉貸処理を行う。具体的には、制御部 2 2 は、カード R / W 2 3 が該プリペイドカード 2 から読み取ったカード ID を残額管理装置 4 0 に対して送信し、該カード ID に対応付けて管理されているプリペイド残額を残額管理装置 4 0 から受信すると、該プリペイド残額を RAM で記憶して、残度数表示器 1 4 で残度数を表示する処理を行う。

【 0 0 3 8 】

この状態で玉貸ボタン 1 5 が操作されて貸出入力信号が入力されると、制御部 2 2 は、RAM で記憶しているプリペイド残額と予め設定された玉貸設定金額 (例えば 1 円貸し機であれば 2 0 0 円 , 4 円貸し機であれば 5 0 0 円) とを比較して、プリペイド残額 玉貸設定金額であれば、該玉貸設定金額を使用金額として特定し、プリペイド残額 < 玉貸設定金額であれば、該プリペイド残額を使用金額として特定して、該特定した使用金額に相当する度数のパチンコ玉の払出を払出制御基板 1 2 に対して指示する処理を、プリペイド残額を使用した玉貸処理として行って、RAM で記憶しているプリペイド残額から使用金額を減算更新すると共に残度数表示器 1 4 で表示している残度数を減算表示する処理を行う。

【 0 0 3 9 】

この玉貸処理が行われると、台端末装置通信部 2 1 b から、カード ID と使用金額とを含む使用金額信号が出力されて、台端末装置 3 0 を介して、残額管理装置 4 0 に入力される。そして該残額管理装置 4 0 では、該使用金額信号に含まれるカード ID に対応付けて記憶しているプリペイド残額から、該使用金額信号に含まれる使用金額が減算更新される

10

20

30

40

50

。また台端末装置 30 では、使用金額信号から特定される使用金額が売上金額として集計され、該集計された売上金額が、台番号と共に、所定のタイミングでホールコンピュータ 50 に入力される。そして該売上金額と台番号とが入力されたホールコンピュータ 50 では、後述する図 9 に示すように、当日の日付及び入力された台番号に対応付けて、入力された売上金額（図示外）が累積加算されて管理される。

【0040】

またカードユニット 20 において、制御部 22 は、またプリペイドカード 2 が挿入されている状態における紙幣の挿入に基づいて、入金処理を行う、具体的には、制御部 22 は、カード R/W 23 が該プリペイドカード 2 から読み取ったカード ID と紙幣識別機 24 により識別された紙幣に応じた入金金額とを含む入金金額情報を残額管理装置 40 に対して送信し、該カード ID に対応付けて管理されているプリペイド残額に対して該入金金額が加算更新された後のプリペイド残額を残額管理装置 40 から受信すると、該プリペイド残額を RAM で記憶して、残度数表示器 14 で表示している残度数を更新する処理を、入金処理として行う。

【0041】

次に、ホールコンピュータ 50 について説明する。ホールコンピュータ 50 は前記管理装置の一例であって、遊技場内の所定箇所（例えば管理事務所等）に設けられ、遊技場のオペレータにより操作されるものであり、図 1 に示すように接続される通信部 51，制御部 52，ディスプレイ 53，入力装置 54，及びハードディスク 55 を備えるコンピュータである。

【0042】

通信部 51 は、台端末装置 30 と通信可能に接続され、前述の如く、該台端末装置 30 から、アウト玉数，セーフ玉数，スタート回数，及び売上金額を、台番号と共に受信する。制御部 52 は、CPU，RAM，ROM，EEPROM 等を備えており、ROM，EEPROM，あるいはハードディスク 55 に記憶されている処理プログラムが RAM を作業領域として CPU で実行されることにより、ホールコンピュータ 50 に備えられる各構成要素の動作を制御して各種の処理を行うものである。ディスプレイ 53 は各種の情報を表示する表示デバイスであって、例えば液晶ディスプレイである。入力装置 54 は各種の情報の入力を受け付ける入力デバイスであって、例えばキーボードやマウスである。ハードディスク 55 は各種の情報を記憶する記憶デバイスであり、図示しない台番号 DB，図 4 に示す導入情報 DB，図 6 に示す貸与単価 DB，図 8 に示すイベント情報 DB，及び図 9 に示す遊技情報 DB 等を記憶している。

【0043】

このホールコンピュータ 50 では、ハードディスク 55 で記憶している各 DB の記憶内容に基づいて、図 11 に示す導入後遊技データをディスプレイ 53 で表示する前記導入後遊技データ表示処理と、図 14 に示す貸与単価変更後遊技データをディスプレイ 53 で表示する前記貸与単価変更後遊技データ表示処理とが行われる。以下、図 3～図 14 を参照して、ホールコンピュータ 50 の各構成要素について、その機能と作用を説明する。

【0044】

まず図 3 は、ホールコンピュータ 50 のディスプレイ 53 に表示される導入情報設定画面の一例を表す図である。この導入情報設定画面は、遊技場におけるパチンコ機 10 の導入又は撤去に伴って、ホールコンピュータ 50 において導入情報設定プログラムが実行されることにより表示される画面である。具体的には、まず D10 で、導入情報又は撤去情報のいずれを設定するかを選択するラジオボタンが表示される。

【0045】

この D10 で、オペレータが、導入情報のラジオボタンを選択して、入力装置 54 の実行ボタンを操作すると、D11 で、導入するパチンコ機 10 の遊技機 ID の入力欄と、該パチンコ機 10 が配置される台番号の入力欄と、該パチンコ機 10 の機種の入力欄と、該機種の導入日の入力欄と、該機種の導入台数の入力欄と、該機種の導入時期を選択するプルダウンメニューと、該機種のスペックを選択するプルダウンメニューと、該機種のメー

10

20

30

40

50

カの入力欄とが表示される。ここで導入日は、パチンコ機 10 が遊技場に導入されて遊技島に配置され、実際に稼動を開始する日である。また導入時期のプルダウンメニューでは、年末年始、ゴールデンウィーク、又はお盆が表示され、導入日が例えば 12 月 25 日～1 月 7 日であれば年末年始を選択し、例えば 4 月 29 日～5 月 6 日であればゴールデンウィークを選択し、例えば 8 月 10 日～8 月 17 日であればお盆を選択する一方、それら以外の日であれば選択しない。またスペックのプルダウンメニューでは、甘デジ機、又は爆裂機が表示され、導入されるパチンコ機 10 の仕様に応じていずれかを選択する。この D11 で、オペレータが、各項目に入力及び選択して、入力装置 54 の実行ボタンを操作すると、図 4 に示す導入情報 DB において、該入力及び選択した機種、導入日、導入台数、導入時期、スペック、及びメーカーが対応付けて記憶されると共に、該機種が遊技場に現在設置されている現在設置機種として管理される。また図示しない台番号 DB において、前記入力した遊技機 ID、台番号、及び機種が対応付けて記憶される。なおパチンコ機 10 の配置替えが行われると、台番号 DB において、該パチンコ機 10 の遊技機 ID、及び機種に対応付けて記憶されている台番号が、配置替え後の台番号に更新される。

10

20

30

40

50

【0046】

また D10 で、オペレータが、撤去情報のラジオボタンを選択して、入力装置 54 の実行ボタンを操作すると、D12 で、撤去する機種を選択するプルダウンメニューと、該機種の撤去日の入力欄とが表示される。ここで該機種のプルダウンメニューでは、図 4 に示す導入情報 DB で現在設置機種であると管理されている各機種が表示され、該表示される各機種の中から撤去する機種を選択する。また撤去日は、稼動を終了する日である。この D12 で、オペレータが、各項目に入力及び選択して、入力装置 54 の実行ボタンを操作すると、図 4 に示す導入情報 DB において、該選択した機種に対応付けて該入力した撤去日が記憶されると共に、該機種が過去に設置されていた過去設置機種として管理される。

【0047】

次に図 4 は、ホールコンピュータ 50 のハードディスク 55 で記憶している導入情報 DB の記憶内容の一例を表す図である。この導入情報 DB では、各機種について、導入日、導入台数、導入時期、スペック、メーカー、設置状況（現在設置機種であるか過去設置機種であるか）、及び撤去日が記憶されている。この導入情報 DB の記憶内容は、図 3 に示す導入情報設定画面における設定内容に基づいて更新される。

【0048】

この導入情報 DB は、各機種の導入に関わる導入データを管理する導入データ管理手段として機能するものであり、ここでは該導入データとして、各機種の導入台数、導入時期、スペック、及びメーカーを管理する。また導入情報 DB は、各遊技機毎（ここでは各機種毎）に、遊技機に関わる遊技機データを管理する遊技機データ管理手段の一部として機能するものであり、ここでは該遊技機データとして、各機種のスペック、及びメーカーを管理する。

【0049】

また導入情報 DB は、各遊技機毎（ここでは各機種毎）に、遊技場に現在設置されている現在設置遊技機（ここでは現在設置機種）であるか、あるいは過去に設置されていた過去設置遊技機（ここでは過去設置機種）であるかを管理する設置状況管理手段として機能するものであり、ここでは設置状況の記憶欄において、「現在」と記憶することにより現在設置機種であると管理し、「過去」と記憶することにより過去設置機種であると管理する。さらに該設置状況管理手段として機能する導入情報 DB は、過去設置遊技機（ここでは過去設置機種）が設置されていた設置期間を管理するものであり、ここでは該設置期間として、撤去日を管理する。

【0050】

次に図 5 は、ホールコンピュータ 50 のディスプレイ 53 に表示される貸与単価設定変更画面の一例を表す図である。この貸与単価設定変更画面は、各パチンコ機 10（ここでは各機種）について貸与単価を設定又は変更する際に、ホールコンピュータ 50 において貸与単価設定変更プログラムが実行されることにより表示される画面である。具体的には

、まず D 2 0 で、貸与単価設定又は貸与単価変更のいずれを行うかを選択するラジオボタンが表示される。

【 0 0 5 1 】

この D 2 0 で、オペレータが、貸与単価設定のラジオボタンを選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 2 1 で、貸与単価を設定する機種を選択するプルダウンメニューが表示される。ここで該機種のプルダウンメニューでは、図 4 に示す導入情報 D B で管理されている（即ち導入されている）が図 6 に示す貸与単価 D B では管理されていない（即ち貸与単価が設定されていない）各機種が表示され、該表示される各機種の中から貸与単価を設定する機種を選択する。この D 2 1 で、オペレータが、機種を選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 2 2 で、貸与単価として 4 円又は 1 円のいずれを設定するかを選択するラジオボタンと、導入日と、導入台数とが表示される。ここで導入日及び導入台数としては、D 2 1 で選択した機種について図 4 に示す導入情報 D B で管理されている導入日及び導入台数が表示される。この D 2 2 で、オペレータが、4 円又は 1 円のいずれかのラジオボタンを選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、図 6 に示す貸与単価 D B において、D 2 1 で選択した機種について、現在貸与単価の記憶欄で、D 2 2 で選択した貸与単価が記憶され、現在台数の記憶欄で、D 2 2 で表示された導入台数が記憶されると共に、初期設定の記憶欄で、D 2 2 で選択した貸与単価と、D 2 2 で表示された導入日とが記憶される。

【 0 0 5 2 】

また D 2 0 で、オペレータが、貸与単価変更のラジオボタンを選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 2 3 で、貸与単価を変更する機種を選択するプルダウンメニューが表示される。ここで該機種のプルダウンメニューでは、図 6 に示す貸与単価 D B では管理されている（即ち貸与単価が設定されている）各機種が表示され、該表示される各機種の中から貸与単価を変更する機種を選択する。この D 2 3 で、オペレータが、機種を選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 2 4 で、現在貸与単価と、変更後貸与単価と、貸与単価を変更する変更日の入力欄と、現在台数と、変更後台数の入力欄とが表示される。ここで現在貸与単価及び現在台数は、D 2 3 で選択した機種について図 6 に示す貸与単価 D B で管理されている現在貸与単価及び現在台数であり、変更後貸与単価は、該現在貸与単価ではない貸与単価（即ち現在貸与単価が 4 円であれば変更後貸与単価は 1 円，現在貸与単価が 1 円であれば変更後貸与単価は 4 円）であり、変更日は、実際に貸与単価が変更される日であり、変更後台数は、貸与単価の変更に伴ってパチンコ機 1 0 を増加又は減少した後の台数である。この D 2 3 で、オペレータが、各項目に入力して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、図 6 に示す貸与単価 D B において、D 2 3 で選択した機種について、現在貸与単価の記憶欄で、D 2 4 で表示された変更後貸与単価が記憶され、現在台数の記憶欄で、D 2 4 で入力した変更後台数が記憶されると共に、変更の記憶欄（1 回目の変更が行われていなければ該 1 回目変更の記憶欄，1 回目の変更が既に行われていれば 2 回目変更の記憶欄）で、D 2 4 で表示された変更後貸与単価と、D 2 4 で入力した変更日とが記憶される。

【 0 0 5 3 】

この D 2 3 及び D 2 4 を表示するディスプレイ 5 3 及び該 D 2 3 及び D 2 4 で入力及び選択を受け付ける入力装置 5 4 は、遊技機での遊技に使用される遊技媒体の貸与単価を各遊技機（ここでは各機種）について設定変更する貸与単価設定変更手段として機能するものである。

【 0 0 5 4 】

次に図 6 は、ホールコンピュータ 5 0 のハードディスク 5 5 で記憶している貸与単価 D B の記憶内容の一例を表す図である。この貸与単価 D B では、各機種について、現在貸与単価及び現在台数と、貸与単価の初期設定における該貸与単価及び設定日と、貸与単価の 1 回目の変更における該貸与単価及び変更日と、貸与単価の 2 回目の変更における該貸与単価及び変更日とが記憶されている。この貸与単価 D B の記憶内容は、前述の如く、図 5 に示す貸与単価設定変更画面における設定内容に基づいて更新される。

【 0 0 5 5 】

この貸与単価DBは、各遊技機毎（ここでは各機種毎）に、遊技機に関わる遊技機データを管理する遊技機データ管理手段の一部として機能するものであり、ここでは該遊技機データとして、各機種の現在台数を管理する。また貸与単価DBは、各遊技機（ここでは各機種）の貸与単価変更の履歴を管理する変更履歴管理手段として機能するものであり、ここでは初期設定の記憶欄で、初期設定された貸与単価を記憶すると共に、貸与単価の変更が行われる毎に、変更の記憶欄（1回目変更の記憶欄，2回目変更の記憶欄）で、該変更後の貸与単価を順次記憶することにより、貸与単価変更の履歴を管理する。これにより、例えば機種Sにおける貸与単価変更の履歴は、1回目変更で4円から1円に変更されたと特定され、また機種Eにおける貸与単価変更の履歴は、1回目変更で4円から1円に変更され、2回目変更で1円から4円に変更されたと特定される。

10

【 0 0 5 6 】

次に図7は、ホールコンピュータ50のディスプレイ53に表示されるイベント情報設定画面の一例を表す図である。このイベント情報設定画面は、遊技場で開催されるイベントについてイベント情報を設定する際に、ホールコンピュータ50においてイベント情報設定プログラムが実行されることにより表示される画面である。具体的には、D30で、遊技場で開催されるイベントを個々に識別可能なイベントIDの入力欄と、該イベントのイベント名と、該イベントが開催されるイベント期間の入力欄とが表示される。このD30で、オペレータが、各項目に入力して、入力装置54の実行ボタンを操作すると、図8に示すイベント情報DBにおいて、該入力したイベントID，イベント名，及びイベント期間が、対応付けて記憶される。このD30を表示するディスプレイ53及び該D30で入力を受け付ける入力装置54は、遊技場で開催されるイベントについて、該イベントが開催されるイベント期間を設定するイベント期間設定手段として機能するものである。

20

【 0 0 5 7 】

次に図8は、ホールコンピュータ50のハードディスク55で記憶しているイベント情報DBの記憶内容の一例を表す図である。このイベント情報DBでは、イベントID及びイベント名に対応付けて、イベント期間が記憶されている。このイベント情報DBの記憶内容は、前述の如く、図7に示すイベント情報設定画面における設定内容に基づいて更新される。

30

【 0 0 5 8 】

次に図9は、ホールコンピュータ50のハードディスク55で記憶している遊技情報DBの記憶内容の一例を表す図である。この遊技情報DBでは、図示しない台番号DBで記憶されている各パチンコ機10毎のデータテーブルが設けられており、各データテーブルでは、当該パチンコ機10の遊技機ID及び機種が記憶されると共に、当該パチンコ機10の導入日から撤去日（過去設置機種）又は現在（現在設置機種）までの各日付と、当該パチンコ機10が各日付において配置されている台番号とに対応付けて、遊技データが記憶され、ここでは該遊技データとして、図示したアウト玉数と、図示しないセーフ玉数，スタート回数，及び売上金額とが記憶される。この遊技情報DBの記憶内容は、前述の如く、台端末装置30から送信されてくるアウト玉数，セーフ玉数，スタート回数，及び売上金額に基づいて更新される。なおアウト玉数は、実数の百分の一の値（端数は切り捨て）で記憶される。この遊技情報DBは、遊技場に設置されている遊技機での遊技に関わる遊技データを管理する遊技データ管理手段として機能するものであり、ここでは各遊技機について各日付毎の遊技データを記憶する。

40

【 0 0 5 9 】

次に図10は、ホールコンピュータ50のディスプレイ53で表示される導入後遊技データ表示条件設定画面の一例を表す図である。この導入後遊技データ表示条件設定画面は、ホールコンピュータ50において導入後遊技データ表示プログラムが実行されて前記導入後遊技データ表示処理が行われる際に表示される画面である。具体的には、まずD40で、導入後遊技データを他の機種と比較するターゲット機種を指定するか否かを選択するラジオボタンと、ターゲット機種を選択するプルダウンメニューとが表示される。該プル

50

ダウンメニューでは、図 4 に示す導入情報 D B で管理されている各機種が表示され、該表示される各機種の中からターゲット機種を選択する。

【 0 0 6 0 】

この D 4 0 で、オペレータが、ターゲット機種を指定する旨、即ち指定有りのラジオボタンを選択し、かつブルダウンメニューからターゲット機種を選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 4 1 に示すように、領域 A で、遊技データを集計する所定期間（1 週間に相当する 7 日間，約 1 ヶ月に相当する 3 0 日間，又は指定日数の期間）を選択するラジオボタンが表示され、領域 B で、ターゲット機種と導入データが同一及び / 又は近似している機種を抽出するための抽出条件を設定するチェックボックスが表示され、領域 C で、抽出対象（現在設置機種及び / 又は過去設置機種）を選択するラジオボタンが表示され、領域 D で、後述する図 1 1 で出力する遊技データからイベント期間中における遊技データを除外するイベントである除外イベントを設定するチェックボックスが表示される。

10

【 0 0 6 1 】

D 4 1 の領域 A では、遊技データを集計する所定期間として、7 日間，3 0 日間，又は指定日数の期間のうち、いずれか 1 つを選択する。この所定期間として、指定日数の期間を選択した場合には、該指定日数を入力する。

【 0 0 6 2 】

D 4 1 の領域 B では、抽出条件として、ターゲット機種と導入台数が同一及び / 又は近似していること，ターゲット機種と導入時期が同一であること，ターゲット機種とスペックが同一であること，又はターゲット機種とメーカーが同一であることのうち、1 以上の条件を選択可能であり、ここでは少なくとも 1 以上の条件を選択する。この抽出条件として、導入台数が同一及び / 又は近似していることを選択した場合には、プラスマイナス □ 台の入力欄に所望の台数を入力する。ここで台数として 0 台が入力されると、ターゲット機種と導入台数が同一であることが抽出条件として設定されたことになり、また 1 台以上が入力されると、ターゲット機種の導入台数プラスマイナス該入力された台数の範囲であること（即ち近似していること）が抽出条件として設定されたことになる。

20

【 0 0 6 3 】

D 4 1 の領域 C では、抽出対象として、現在設置機種のみ，現在設置機種と過去設置機種，又は過去設置機種の中のうち、いずれか 1 つを選択する。この抽出対象として、現在設置機種と過去設置機種，又は過去設置機種を選択した場合には、過去設置機種のすべてを抽出対象とするか，又は現在から所定年数前まで設置されていた過去設置機種（即ち図 4 に示す導入情報 D B で管理している撤去日が所定年数前までの過去設置機種）を抽出対象とするかを選択し、後者を選択した場合には、該所定年数を入力する。

30

【 0 0 6 4 】

この D 4 1 の領域 C を表示するディスプレイ 5 3 及び該領域 C で抽出対象の選択を受け付ける入力装置 5 4 は、抽出対象を、現在設置機種（現在設置遊技機）のみとするか、あるいは現在設置機種及び過去設置機種（過去設置遊技機）とするかを設定する抽出対象設定手段として機能するものであり、ここでは抽出対象を過去設置機種のみとする旨も設定可能である。これによれば、遊技データを出力する機種として、現在設置機種のみを抽出対象とするか、現在設置機種及び過去設置機種を抽出対象とするか、あるいは過去設置機種のみと抽出対象とするかを設定することができるので、遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

40

【 0 0 6 5 】

また該抽出対象設定手段として機能するディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4 は、抽出対象とする過去設置機種（過去設置遊技機）の設置期間を設定するものであり、ここでは該設置期間として、全期間（即ち過去設置機種のすべて）又は現在から所定年数前までを設定する。これによれば、抽出対象とする過去設置機種の設置期間を設定することができるので、より遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

【 0 0 6 6 】

50

D 4 1 の領域 D では、図 8 に示すイベント情報 DB で記憶している各イベントのイベント名が一覧表示され、除外イベントして、1 以上のイベントを選択可能であるが、該イベントを 1 以上選択しても良いし、1 つも選択しなくても良い。この D 4 1 の領域 D を表示するディスプレイ 5 3 及び該領域 D で除外イベントの選択を受け付ける入力装置 5 4 は、後述する図 1 1 で出力する遊技データからイベント期間中における遊技データを除外するイベントを設定する除外イベント設定手段として機能するものである。

【0067】

この D 4 1 で、オペレータが、図示の如く各項目を入力及び選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、制御部 5 2 が抽出手段、遊技データ集計手段、及び遊技データ比率算出手段として機能し、ディスプレイ 5 3 が出力手段として機能することにより、図 1 1 (a) のケース 1 に示す導入後遊技データが該ディスプレイ 5 3 で表示される。

10

【0068】

具体的には、D 4 1 の領域 B で、抽出条件として、D 4 0 で指定されたターゲット機種 U の導入台数 1 6 台 ± 5 台と設定されており、かつ D 4 1 の領域 C で、抽出対象として、現在設置機種のみと設定されているので、図 4 に示す導入情報 DB から、該抽出条件及び抽出対象を満たす表示条件合致機種として、導入台数が 1 2 台であり現在設置機種である機種 E と、導入台数が 1 6 台であり現在設置機種である機種 Q とを抽出する。

【0069】

次に D 4 1 の領域 A で、遊技データ集計期間として 7 日間と設定されているので、導入後 1 日目 (即ち導入日) から 7 日目までの第 1 期間、導入後 8 日目から 1 4 日目までの第 2 期間、及び導入後 1 5 日目から 2 1 日目までの第 3 期間の各期間毎に (即ち導入日から 7 日間毎に) 、ターゲット機種 U について、図 9 に示す遊技情報 DB で該ターゲット機種 U に属する各パチンコ機 1 0 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、各期間における各パチンコ機 1 0 のアウト玉数を抽出し、該抽出した各期間におけるアウト玉数の合算値を当該機種 U の台数と当該 7 日間で除算することにより、各パチンコ機 1 0 の各期間のアウト玉数を平均した期間中平均アウト玉数を集計する。なお D 4 1 の領域 D で、除外イベントは設定されていないので、該期間中平均アウト玉数の集計にあたり、遊技データを除外する必要は無い。

20

【0070】

また該集計した各期間における期間中平均アウト玉数に基づいて、第 2 期間の期間中平均アウト玉数 ÷ 第 1 期間の期間中平均アウト玉数 × 1 0 0 の式で、第 2 期間における減少率を算出し、第 3 期間の期間中平均アウト玉数 ÷ 第 1 期間の期間中平均アウト玉数 × 1 0 0 の式で、第 3 期間における減少率を算出する。さらに前記集計した各期間における期間中平均アウト玉数に基づいて、第 1 期間の期間中平均アウト玉数を、第 1 期間までの全期間平均アウト玉数とし、(第 1 期間の期間中平均アウト玉数 + 第 2 期間の期間中平均アウト玉数) ÷ 2 の式で、第 2 期間までの全期間平均アウト玉数を算出し、(第 1 期間の期間中平均アウト玉数 + 第 2 期間の期間中平均アウト玉数) ÷ 2 の式で、第 2 期間までの全期間平均アウト玉数を算出し、(第 1 期間の期間中平均アウト玉数 + 第 2 期間の期間中平均アウト玉数 + 第 3 期間の期間中平均アウト玉数) ÷ 3 の式で、第 3 期間までの全期間平均アウト玉数を算出する。

30

40

【0071】

同様にして、表示条件合致機種 E と、表示条件合致機種 Q とについても、各期間毎に期間中平均アウト玉数を集計し、各期間における減少率を算出し、各期間までの全期間平均アウト玉数を算出する。そして図 1 1 (a) に示すように、導入後遊技データとして、前記集計及び算出された各期間毎の期間中平均アウト玉数、減少率、及び全期間平均アウト玉数を、ターゲット機種 U と、表示条件合致機種 E と、表示条件合致機種 Q との間で、比較可能に出力する。

【0072】

ここで制御部 5 2 は、導入情報 DB で管理している導入データが同一及び / 又は近似している機種を抽出する抽出手段として機能するものであり、抽出条件として導入台数が同

50

一及び／又は近似していることと設定されている場合には、導入情報ＤＢで管理している導入台数が同一及び／又は近似している機種を抽出し、抽出条件として導入時期が同一であることと設定されている場合には、導入情報ＤＢで管理している導入時期が同一である機種を抽出し、抽出条件としてスペックが同一であることと設定されている場合には、導入情報ＤＢで管理しているスペックが同一である機種を抽出し、抽出条件としてメーカーが同一であることと設定されている場合には、導入情報ＤＢで管理しているメーカーが同一である機種を抽出する。

【００７３】

また抽出手段として機能する制御部５２は、抽出対象設定手段（ディスプレイ５３及び入力装置５４）により設定された抽出対象（現在設置機種のみ、現在設置機種及び過去設置機種、又は過去設置機種のみ）から前記抽出を行うものである。

10

【００７４】

また制御部５２は、各機種について、遊技場に導入されてから所定期間毎（遊技データ集計期間毎）の遊技データを集計する遊技データ集計手段として機能するものであり、ここでは該遊技データとして、期間中平均アウト玉数を集計する。また制御部５２は、遊技場に導入されてから最初の所定期間（第１期間）における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間（第２期間、第３期間）における遊技データの比率（減少率）を算出する遊技データ比率算出手段として機能するものである。

【００７５】

また図１１に示す導入後遊技データを表示するディスプレイ５３は、遊技情報ＤＢで管理している遊技データ（アウト玉数）に基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における複数機種の遊技データを、当該複数の機種間で比較可能に出力する出力手段として機能するものであり、ここでは遊技場に導入されてからの経過期間が０日で同一である遊技データ（即ち導入日からの遊技データ）を、各機種間で比較可能に出力する。これによれば、各機種の遊技データを、あたかも各機種が同時に導入されたようにして比較することができる。

20

【００７６】

そして該出力手段として機能するディスプレイ５３は、前記同一の期間における遊技データを、抽出手段により抽出された機種について比較可能に出力することを特徴とするものである。これによれば、各機種の導入に関わる導入データが同一及び／又は近似している機種について、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを適切に比較することができる。ここで本発明により、（１）導入データとして導入台数が同一及び／又は近似している機種について遊技データが比較可能に出力された場合、及び（２）導入データとして導入時期が同一である機種について遊技データが比較可能に出力された場合について、該遊技データを適切に比較することができる理由を、従来の技術と対比しつつ説明する。

30

【００７７】

まず（１）の如く導入台数を指標とする場合について、遊技場が決定する該導入台数には、各機種の稼動の良否に対する遊技場の期待度が一般に表れ、高稼動を期待する遊技機の導入台数は多く、それほど稼動が高くなるとは期待していない遊技機の導入台数は少なくなる。ここで従来の技術だと、導入台数の多少に拘わらず、各機種の遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データが同程度である（例えば５割の稼動を示す）場合には、各機種の稼動が概ね良好であると判断される。しかしながら、導入台数が多い機種は、元々高稼動を期待して導入しており、しかも実際に稼動が高い（例えば７～８割を示す）ことが多いため、当該稼動が５割を示す場合には、稼動が非常に悪いと判断されるべきである。一方、導入台数が少ない機種は、元々高稼動は期待せずに導入しており、実際に稼動が低い（例えば２～３割を示す）ことが多いため、当該機種の稼動が５割を示す場合には、稼動が非常に良いと判断されるべきである。つまり従来の技術では、各機種の遊技データが導入台数の多少に拘わらず出力されるので、各機種の稼動の良し悪しを適切に比較して判断することができない。これに対し、本発明では、導入台数が同一及び／又は近

40

50

似している機種について遊技データが比較可能に出力されるので、稼働の良否に対する期待度が同程度である各機種の稼働の良し悪しを適切に比較して判断することができる。上記の例で言えば、ある機種について、導入台数が多いのに５割の稼働であれば、他の比較対象の機種は７～８割の稼働であるので、稼働が悪いと評価することができ、また、ある機種について、導入台数が少ないのに５割の稼働であれば、他の比較対象の機種は２～３割の稼働であるので、稼働がよいと評価することができる。

【００７８】

また（２）の如く導入時期を指標とする場合について、遊技場の稼働率は時期により大きく異なり、導入時期が前述した年末年始、ゴールデンウィーク、又はお盆のように休日が多い時期であれば、普段は遊技場に来ない客の来場や、多額の遊興費を持っている客の来場が見込めることから、元々稼働が高く、それ以外の休日が少ない時期であれば、元々稼働がそれほど高くはない。ここで従来の技術だと、導入時期に拘わらず、各機種の遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データが同程度である（例えば５割の稼働を示す）場合には、各機種の稼働が概ね良好であると判断される。しかしながら、休日が多い時期に導入された機種は、時期的要因により元々稼働が高い（例えば７～８割を示す）ことが多いため、当該稼働が５割を示す場合には、稼働が悪く、遊技場における稼働の向上に寄与していないと判断されるべきである。一方、休日が少ない時期に導入された機種の稼働が５割を示す場合には、時期的要因により元々稼働が低い（例えば２～３割を示す）ことが多いため、稼働が良く、遊技場における稼働の向上に寄与していると判断されるべきである。つまり従来の技術では、各機種の遊技データが導入時期に拘わらず出力されるので、各機種の稼働の良し悪しを適切に比較して、遊技場における稼働の向上に寄与しているか否かを適切に判断することができない。これに対し、本発明では、導入時期が同一である機種について遊技データが比較可能に出力されるので、稼働の向上に対する期待度が同程度である各機種の稼働の良し悪しを適切に比較して、遊技場における稼働の向上に寄与しているか否かを適切に判断することができる。上記の例で言えば、ある機種について、休日が多い時期に導入されたのに５割の稼働であれば、他の比較対象の機種は７～８割の稼働であるので、稼働が悪く、遊技場における稼働の向上に寄与していないと評価することができ、また、ある機種について、休日が少ない時期に導入されたのに５割の稼働であれば、他の比較対象の機種は２～３割の稼働であるので、稼働が良く、遊技場における稼働の向上に寄与していると評価することができる。

【００７９】

以上に説明した理由により、本発明によれば、各機種の導入に関わる導入データが同一及び／又は近似している機種について、遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを適切に比較することができる。従って導入データは、各機種の稼働に係のあるデータが好ましく、このために本発明では、図４に示すように、導入台数や導入時期等を導入データとして管理しているのである。

【００８０】

そして本発明によれば、出力される各機種の遊技データを比較して、遊技データが悪い機種の入替（撤去）又は貸与単価の変更（４円から１円への変更）や、遊技データが良い機種の増台又は貸与単価の変更（１円から４円への変更）等の参考とすることができる。特にターゲット機種を指定した場合には、当該ターゲット機種の遊技データと他の機種の遊技データとを比較して、ターゲット機種の遊技データが悪ければ、該ターゲット機種の入替又は貸与単価の変更等の参考とすることができ、ターゲット機種の遊技データが良ければ、該ターゲット機種の増台又は貸与単価の変更等の参考とすることができる。なお貸与単価の変更については、図１５を参照して詳述する。

【００８１】

また前記出力手段から、各機種の導入台数が同一及び／又は近似している機種について、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力された場合には、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入台数の参考とすることができる。具体的には、導入台数が同一及び／又は近似しており、一方のスペックが甘デジ機であり他方のスベ

ックが爆裂機である2つの機種について、遊技データが比較可能に出力された場合には、例えば甘デジ機の遊技データが良く爆裂機の遊技データが悪ければ、爆裂機の導入台数が適切でなかった（多すぎた又は少なすぎた）と判断できるので、新たに爆裂機を導入する際の導入台数の参考とすることができる。また導入台数が同一及び/又は近似しており、一方の貸与単価が1円であり他方の貸与単価が4円である2つの機種について、遊技データが比較可能に出力された場合には、例えば貸与単価が1円である機種の遊技データが良く貸与単価が4円である機種の遊技データが悪ければ、貸与単価が4円である機種の導入台数が適切でなかった（多すぎた又は少なすぎた）と判断できるので、新たに貸与単価が4円である機種を導入する際の導入台数の参考とすることができる。

【0082】

また前記出力手段から、各機種の導入時期が同一である機種について、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力された場合には、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入時期の参考とすることができる。具体的には、導入時期が同一であり、一方のスペックが甘デジ機であり他方のスペックが爆裂機である2つの機種について、遊技データが比較可能に出力された場合には、例えば甘デジ機の遊技データが良く爆裂機の遊技データが悪ければ、爆裂機の導入時期が適切でなかったと判断できるので、新たに爆裂機を導入する際の導入時期の参考とすることができる。また導入時期が同一であり、一方の貸与単価が1円であり他方の貸与単価が4円である2つの機種について、遊技データが比較可能に出力された場合には、例えば1円貸し機の遊技データが良く4円貸し機の遊技データが悪ければ、4円貸し機の導入時期が適切でなかったと判断できるので、新たに4円貸し機を導入する際の導入時期の参考とすることができる。

【0083】

さらに前記出力手段として機能するディスプレイ53は、遊技データ比率算出手段により算出された比率が遊技データ（期間中平均アウト玉数）の低下を示す機種について、当該比率（各期間の減少率）を比較可能に出力するものである。これによれば、最初の所定期間（第1期間）における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間（第2期間、第3期間）における遊技データの比率が、該遊技データの低下を示す機種について、当該比率が比較可能に出力されるので、遊技機の入替等の参考とすることができる。具体的には、遊技データの低下が緩やかである機種については入替をせずに継続して様子見をし、遊技データの低下が急である機種については入替をする等の処置を行うことができる。なお該出力手段は、図11に示すような表形式ではなく、図12に示すような折れ線グラフ形式で、各期間の減少率を比較可能に出力することも可能である。

【0084】

図10に戻り、D40で、オペレータが、ターゲット機種を指定するしない旨、即ち指定無しのラジオボタンを選択して、入力装置54の実行ボタンを操作すると、D42に示すように、領域Aで、前記遊技データ集計期間を選択するラジオボタンが表示され、領域B'で、導入データが同一及び/又は近似している機種を抽出するための抽出条件を設定するチェックボックスが表示され、領域Cで、前記抽出対象を選択するラジオボタンが表示され、領域Dで、前記除外イベントを設定するチェックボックスが表示される。ここで領域A、C、Dの表示及び機能は、D41で説明したのと同様である。

【0085】

D41の領域B'では、抽出条件として、導入台数が同一及び/又は近似していること、導入時期が同一であること、スペックが同一であること、又はメーカーが同一であることのうち、1以上の条件を選択可能であり、ここでは少なくとも1以上の条件を選択する。この抽出条件として、導入台数が同一及び/又は近似していることを選択した場合には、導入台数の入力欄に所望の台数を入力すると共に、プラスマイナス□台の入力欄に所望の台数を入力する。ここで台数として0台が入力されると、導入台数が同一であることが抽出条件として設定されたことになり、また1台以上が入力されると、導入台数プラスマイナス該入力された台数の範囲であること（即ち近似していること）が抽出条件として設定されたことになる。

【 0 0 8 6 】

この D 4 2 で、オペレータが、図示の如く各項目を入力及び選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、制御部 5 2 が前記抽出手段、遊技データ集計手段、及び遊技データ比率算出手段として機能し、ディスプレイ 5 3 が前記出力手段として機能することにより、図 1 1 (b) のケース 2 に示す導入後遊技データが該ディスプレイ 5 3 で表示される。

【 0 0 8 7 】

具体的には、D 4 2 の領域 B ' で、抽出条件として、導入時期が年末年始と設定されており、かつ D 4 2 の領域 C で、抽出対象として、現在設置機種 + 現在 (例えば 2 0 0 7 年 1 1 月 3 0 日) から 1 年前まで設置されていた過去設置機種と設定されているので、図 4 に示す導入情報 D B から、該抽出条件及び抽出対象を満たす表示条件合致機種として、導入時期が年末年始であり現在設置機種又は現在から 1 年前まで設置されていた過去設置機種である機種 A , B , C を抽出する。ここで前記抽出手段として機能する制御部 5 2 は、抽出対象設定手段により設定された設置期間に設置されていた過去設置機種から前記抽出を行うものである。

【 0 0 8 8 】

次に D 4 2 の領域 A で、遊技データ集計期間として 3 0 日間と設定されているので、導入後 1 日目 (即ち導入日) から 3 0 日目までの第 1 期間、導入後 3 1 日目から 6 0 日目までの第 2 期間、及び導入後 6 1 日目から 9 0 日目までの第 3 期間の各期間毎に (即ち導入日から 3 0 日間毎に)、まず機種 A について、図 9 に示す遊技情報 D B で該機種 A に属する各パチンコ機 1 0 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、各期間における各パチンコ機 1 0 のアウト玉数を抽出し、該抽出した各期間におけるアウト玉数の合算値を当該機種 A の台数と当該 3 0 日間で除算することにより、各パチンコ機 1 0 の各期間のアウト玉数を平均した期間中平均アウト玉数を集計する。なお D 4 2 の領域 D で、除外イベントとして新年祭が設定されているので、図 8 に示すイベント情報 D B で管理されている該新年祭のイベント期間中 (即ち 2 0 0 7 年 1 月 1 日 ~ 1 月 7 日) のアウト玉数は除外して、期間中平均アウト玉数を集計する。

【 0 0 8 9 】

また図 1 1 (a) で説明したのと同様にして、機種 A について、該集計した各期間における期間中平均アウト玉数に基づいて、各期間における減少率を算出し、各期間までの全期間平均アウト玉数を算出する。同様にして、機種 B , C についても、各期間毎に期間中平均アウト玉数を集計し、各期間における減少率を算出し、各期間までの全期間平均アウト玉数を算出する。そして図 1 1 (b) に示すように、導入後遊技データとして、前記集計及び算出された各期間毎の期間中平均アウト玉数、減少率、及び全期間平均アウト玉数を、表示条件合致機種 A , B , C の間で、比較可能に出力する。

【 0 0 9 0 】

ここで前記出力手段として機能するディスプレイ 5 3 は、除外イベント設定手段により設定されたイベントのイベント期間中における遊技データを除外して、遊技データを出力するものである。これによれば、除外イベントのイベント期間中における遊技データを除外して、遊技データが比較可能に出力されるので、イベントの影響を受けていない遊技データに基づいて、より適切な比較を行うことができる。

【 0 0 9 1 】

次に図 1 3 は、ホールコンピュータ 5 0 のディスプレイ 5 3 で表示される貸与単価変更後遊技データ表示条件設定画面の一例を表す図である。この貸与単価変更後遊技データ表示条件設定画面は、ホールコンピュータ 5 0 において貸与単価変更後遊技データ表示プログラムが実行されて前記貸与単価変更後遊技データ表示処理が行われる際に表示される画面である。具体的には、まず D 5 0 で、変更後遊技データを他の機種と比較する変更対象遊技機を選択するプルダウンメニューが表示される。該プルダウンメニューでは、図 6 に示す導入情報 D B で貸与単価変更の履歴が管理されている (即ち少なくとも 1 回目の貸与単価変更が行われている) 各機種が表示され、該表示される各機種の中から変更対象機種

を選択する。

【 0 0 9 2 】

この D 5 0 で、オペレータが、プルダウンメニューから変更対象機種を選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、D 5 1 に示すように、領域 A で、遊技データを集計する所定期間（1 週間に相当する 7 日間，約 1 ヶ月に相当する 3 0 日間，又は指定日数の期間）を選択するラジオボタンが表示され、領域 B で、変更対象機種と遊技機データが同一及び / 又は近似している機種を抽出するための抽出条件を設定するチェックボックスが表示され、領域 C で、抽出対象（現在設置機種及び / 又は過去設置機種）を選択するラジオボタンが表示され、領域 D で、後述する図 1 4 で出力する遊技データからイベント期間中における遊技データを除外するイベントである除外イベントを設定するチェックボックスが表示される。ここで領域 A , C , D の表示及び機能は、D 4 1 で説明したのと同様である。

10

【 0 0 9 3 】

D 5 1 の領域 B では、抽出条件として、変更対象機種と現在台数が同一及び / 又は近似していること，変更対象機種とスペックが同一であること，又は変更対象機種とメーカーが同一であることのうち、1 以上の条件を選択可能であるが、該抽出条件を 1 以上選択しても良いし、1 つも選択しなくても良い。この抽出条件として、現在台数が同一及び / 又は近似していることを選択した場合には、プラスマイナス □ 台の入力欄に所望の台数を入力する。ここで台数として 0 台が入力されると、変更対象機種と現在台数が同一であることが抽出条件として設定されたことになり、また 1 台以上が入力されると、変更対象機種の現在台数プラスマイナス該入力された台数の範囲であること（即ち近似していること）が抽出条件として設定されたことになる。

20

【 0 0 9 4 】

D 5 1 の領域 D を表示するディスプレイ 5 3 及び該領域 D で除外イベントの選択を受け付ける入力装置 5 4 は、後述する図 1 4 で出力する遊技データ（変更前遊技データ，変更後遊技データ，平均遊技データ）からイベント期間中における遊技データを除外するイベントを設定する除外イベント設定手段として機能するものである。

【 0 0 9 5 】

この D 5 1 で、オペレータが、図示の如く各項目を入力及び選択して、入力装置 5 4 の実行ボタンを操作すると、制御部 5 2 が抽出手段として機能し、ディスプレイ 5 3 が出力手段として機能することにより、図 1 4 (a) のケース 1 に示す貸与単価変更後遊技データが該ディスプレイ 5 3 で表示される。

30

【 0 0 9 6 】

具体的には、図 6 に示す貸与単価 D B において、変更対象機種 S については、貸与単価の変更が 1 回行われて、現在貸与単価として 1 円が設定されており、D 5 1 の領域 B で、抽出条件として、変更対象機種 S の現在台数 1 0 台 ± 5 台と設定されており、かつ D 5 1 の領域 C で、抽出対象として、現在設置機種 + 現在（例えば 2 0 0 7 年 1 1 月 3 0 日）から 1 年前まで設置されていた過去設置機種と設定されているので、図 6 に示す貸与単価 D B から、現在貸与単価が同一であり、かつ該抽出条件及び抽出対象を満たす他の機種として、現在貸与単価が 1 円であり現在台数が 8 台であり現在から 1 年前まで設置されていた過去設置機種である機種 P と、現在貸与単価が 1 円であり現在台数が 8 台であり現在設置機種である機種 T とを抽出する。

40

【 0 0 9 7 】

次に D 5 1 の領域 A で、遊技データ集計期間として 7 日間と設定されているので、変更対象機種 S について、図 9 に示す遊技情報 D B で該変更対象機種 S に属する各パチンコ機 1 0 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、貸与単価の変更日（2 0 0 7 年 1 1 月 1 日）よりも前の 7 日間（即ち 1 0 月 2 5 日 ~ 3 1 日）における各パチンコ機 1 0 のアウト玉数を抽出し、該抽出したアウト玉数の合算値を当該機種 S の台数と当該 7 日間で除算することにより、貸与単価変更前 7 日間分の平均アウト玉数である変更前遊技データを集計すると共に、貸与単価の変更日より後の 7 日間（即ち 1 1 月 1 日 ~ 7 日

50

）における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出し、該抽出したアウト玉数の合算値を当該機種 S の台数と当該 7 日間で除算することにより、貸与単価変更後 7 日間分の平均アウト玉数である変更後遊技データを集計する。

【 0 0 9 8 】

また他の機種 P について、図 9 に示す遊技情報 DB で該他の機種 P に属する各パチンコ機 10 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、貸与単価が 1 円になった日（2007 年 10 月 1 日）よりも後の 7 日間（即ち 10 月 1 日～7 日）における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出すると共に、他の機種 T について、図 9 に示す遊技情報 DB で該他の機種 T に属する各パチンコ機 10 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、貸与単価が 1 円になった日（2007 年 10 月 15 日）よりも後の 7 日間（即ち 10 月 15 日～21 日）における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出し、該抽出した機種 P 及び T のアウト玉数の合算値を当該機種 P 及び T の台数と当該 7 日間で除算することにより、1 円の貸与単価設定後 7 日間分の平均アウト玉数である平均遊技データを集計する。

10

【 0 0 9 9 】

なお D 5 1 の領域 D で、除外イベントは設定されていないので、これら変更前遊技データ、変更後遊技データ、及び平均遊技データの集計にあたり、遊技データを除外する必要は無い。

【 0 1 0 0 】

そして図 1 4（a）に示すように、貸与単価変更後遊技データとして、変更対象機種 S について 1 回目の貸与単価の変更が行われた変更日及び貸与単価変更の履歴（ここでは 4 円から 1 円への変更）を出力すると共に、該変更対象機種 S について前記集計された変更前遊技データ及び変更後遊技データと、他の機種 P 及び T について前記集計された平均遊技データとを、比較可能に出力する。

20

【 0 1 0 1 】

ここで制御部 5 2 は、変更対象遊技機（ここでは変更対象機種）と同一の貸与単価が設定されており、かつ該変更対象遊技機と遊技機データが同一及び / 又は近似している遊技機（ここでは機種）を抽出する抽出手段として機能するものであり、抽出条件として現在台数が同一及び / 又は近似していることと設定されている場合には、貸与単価 DB で管理している現在台数が同一及び / 又は近似している機種を抽出し、抽出条件としてスペックが同一であることと設定されている場合には、導入情報 DB で管理しているスペックが同一である機種を抽出し、抽出条件としてメーカーが同一であることと設定されている場合には、導入情報 DB で管理しているメーカーが同一である機種を抽出する。

30

【 0 1 0 2 】

また抽出手段として機能する制御部 5 2 は、抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）により設定された抽出対象（現在設置機種のみ、現在設置機種及び過去設置機種、又は過去設置機種のみ）から前記抽出を行うものであり、ここでは抽出対象設定手段により設定された設置期間に設置されていた過去設置遊技機から前記抽出を行う。

【 0 1 0 3 】

また図 1 4 に示す貸与単価変更後遊技データを表示するディスプレイ 5 3 は、貸与単価設定変更手段により貸与単価が変更されたことに基づいて、該変更が行われた変更対象遊技機（ここでは変更対象機種）の貸与単価変更前の変更前遊技データ及び貸与単価変更後の変更後遊技データと、少なくとも変更対象遊技機と同一の貸与単価が設定されている他の遊技機（ここでは他の機種）の遊技データを平均した平均遊技データとを比較可能に出力する出力手段として機能するものである。これによれば、貸与単価の変更が行われた変更対象機種の貸与単価変更前の変更前遊技データと貸与単価変更後の変更後遊技データとが比較可能に出力されるので、貸与単価の変更による変更対象機種の遊技データの変化を把握することができると共に、変更対象機種と同一の貸与単価が設定されている他の機種の遊技データを平均した平均遊技データも比較可能に出力されるので、変更対象機種の変更後遊技データの良し悪しを他の機種との比較で把握することができる。そして後述する

40

50

図 15 で説明するように、この貸与単価変更後遊技データは、パチンコ機 10 の撤去や貸与単価の変更等の処置を行うのに活用することができる。

【0104】

また該出力手段として機能するディスプレイ 53 は、変更対象機種 of 貸与単価変更からの経過期間と他の機種 of 貸与単価が該変更対象機種と同一の貸与単価になってからの経過期間とが同一の期間における変更後遊技データと平均遊技データとを比較可能に出力するものであり、ここでは両者の経過期間が 0 日で同一である変更後遊技データと平均遊技データ（即ち変更対象機種について貸与単価の変更日からの変更後遊技データと、他の機種について当該貸与単価になった日からの平均遊技データ）を比較可能に出力する。これによれば、変更対象遊技機の変更後遊技データと他の遊技機の平均遊技データとを、あたかも貸与単価が同時に同一になったようにして比較することができるので、適切な比較を行うことができる。

10

【0105】

また該出力手段として機能するディスプレイ 53 は、抽出手段により抽出された機種 of 遊技データを平均した前記平均遊技データを出力するものである。これによれば、変更対象機種と遊技機データが同一及び / 又は近似している機種 of 遊技データを平均した平均遊技データが出力されるので、より適切に変更対象機種 of 変更後遊技データの良し悪しを把握することができる。

【0106】

さらに該出力手段として機能するディスプレイ 53 は、変更履歴管理手段（貸与単価 DB）で管理している変更対象機種 of 貸与単価変更の履歴と共に、変更前遊技データ、変更後遊技データ、及び平均遊技データを出力するものである。これによれば、変更対象機種 of 取り扱い方を適切に検討することができるが、その具体的な内容については、図 15 を参照して後述する。

20

【0107】

図 13 に戻り、D50 で変更対象機種 E が選択され、D51 と同様の D51' で、オペレータが、図示の如く各項目を入力及び選択して、入力装置 54 の実行ボタンを操作すると、制御部 52 が前記抽出手段として機能し、ディスプレイ 53 が前記出力手段として機能することにより、図 14（b）のケース 2 に示す貸与単価変更後遊技データが該ディスプレイ 53 で表示される。

30

【0108】

具体的には、図 6 に示す貸与単価 DB において、変更対象機種 E については、貸与単価の変更が 2 回行われて、現在貸与単価として 4 円が設定されており、D51 の領域 B で、抽出条件として、変更対象機種 E とスペック（ここでは爆裂機）が同一であることと設定されており、かつ D51 の領域 C で、抽出対象として、現在設置機種のみと設定されているので、図 6 に示す貸与単価 DB から、現在貸与単価が同一であり、かつ該抽出条件及び抽出対象を満たす他の機種として、現在貸与単価が 4 円でありスペックが爆裂機であり現在設置機種である機種 B 及び D を抽出する。

【0109】

次に D51 の領域 A で、遊技データ集計期間として 30 日間と設定されているので、変更対象機種 E について、図 9 に示す遊技情報 DB で該変更対象機種 E に属する各パチンコ機 10 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、2 回目の貸与単価の変更日（2007 年 8 月 1 日）よりも前の 30 日間（即ち 8 月 2 日～31 日）における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出し、該抽出したアウト玉数の合算値を当該機種 E の台数と当該 30 日間で除算することにより、貸与単価変更前 30 日間分の平均アウト玉数である変更前遊技データを集計すると共に、貸与単価の変更日より後の 30 日間（即ち 8 月 1 日～30 日）における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出し、該抽出したアウト玉数の合算値を当該機種 E の台数と当該 30 日間で除算することにより、貸与単価変更後 30 日間分の平均アウト玉数である変更後遊技データを集計する。

40

【0110】

50

また他の機種 B について、図 9 に示す遊技情報 DB で該他の機種 B に属する各パチンコ機 10 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、貸与単価が 4 円になった日 (2006 年 12 月 23 日) よりも後の 30 日間 (即ち 2006 年 12 月 23 日 ~ 2007 年 1 月 21 日) における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出すると共に、他の機種 D について、図 9 に示す遊技情報 DB で該他の機種 D に属する各パチンコ機 10 について記憶している遊技データのうちのアウト玉数から、貸与単価が 4 円になった日 (2007 年 3 月 1 日) よりも後の 30 日間 (即ち 3 月 1 日 ~ 30 日) における各パチンコ機 10 のアウト玉数を抽出し、該抽出した機種 B 及び D のアウト玉数の合算値を当該機種 B 及び D の台数と当該 30 日間で除算することにより、4 円の貸与単価設定後 30 日間分の平均アウト玉数である平均遊技データを集計する。

10

【0111】

なお D51' の領域 D で、除外イベントとして新年祭が設定されているので、図 8 に示すイベント情報 DB で管理されている該新年祭のイベント期間中 (即ち 2007 年 1 月 1 日 ~ 1 月 7 日) のアウト玉数は除外して、平均遊技データを集計する。

【0112】

そして図 14 (b) に示すように、貸与単価変更後遊技データとして、変更対象機種 E について 1 回目の貸与単価の変更が行われた変更日及び貸与単価変更の履歴 (ここでは 4 円から 1 円への変更) と 2 回目の貸与単価の変更が行われた変更日及び貸与単価変更の履歴 (ここでは 1 円から 4 円への変更) とを出力すると共に、該変更対象機種 E について前記集計された変更前遊技データ及び変更後遊技データと、他の機種 B 及び D について前記集計された平均遊技データとを、比較可能に出力する。

20

【0113】

ここで前記出力手段として機能するディスプレイ 53 は、除外イベント設定手段により設定されたイベントのイベント期間中における遊技データを除外して、遊技データを出力するものである。これによれば、除外イベントのイベント期間中における遊技データを除外して、変更前遊技データ、変更後遊技データ、及び平均遊技データが比較可能に出力されるので、イベントの影響を受けていない遊技データに基づいて、より適切な比較を行うことができる。

【0114】

次に図 15 は、導入後遊技データ及び単価変更後遊技データに基づいて遊技場が行う処置の一例を表すフローチャートである。遊技場においては、各遊技機の稼働が同じであれば貸与単価が高い方が売上が上がるので、可能な限り各遊技機について高い貸与単価 (本例では 4 円) を設定する一方、該高い貸与単価の遊技機の稼働が低下した場合には、低い貸与単価 (本例では 1 円) を設定すると稼働が向上する傾向にあるので、各遊技機の稼働に応じて貸与単価の設定を行っている。本実施形態では、前述した導入後遊技データ (図 11) 及び単価変更後遊技データ (図 14) に基づいて、図 15 に示すような処置を遊技場が行うことができる。

30

【0115】

まず図 15 (a) に示すように、導入時に貸与単価が 1 円と設定された機種については、所定期間 (例えば 1 ヶ月) 経過後に、当該機種をターゲット機種とした導入後遊技データを検討し (S101)、該ターゲット機種の稼働 (即ち期間中平均アウト玉数) が表示条件合致機種の稼働よりも良いか否かを判断する (S102)。この S102 でターゲット機種の稼働が表示条件合致機種よりも悪い (NO) と判断した場合には、該ターゲット機種を撤去して (S103)、処置を終了する。一方、S102 でターゲット機種の稼働が表示条件合致機種よりも良い (YES) と判断した場合には、売上の向上を狙って貸与単価を 4 円に変更する (S104)。

40

【0116】

貸与単価を 4 円に変更して、所定期間 (例えば 1 ヶ月) 経過後に、当該機種を変更対象機種とした貸与単価変更後遊技データを検討し (S111)、該変更対象機種の稼働 (即ち変更後遊技データ) が他機種の稼働 (即ち平均遊技データ) よりも良いか否かを判断す

50

る（Ｓ１１２）。このＳ１１２で変更対象機種の稼動が他機種の稼動よりも良い（ＹＥＳ）と判断した場合には、該変更対象機種を増台するか又はそのままの台数とするかを検討して（Ｓ１１３）、Ｓ１１１に戻る。一方、Ｓ１１２で変更対象機種の稼動が他機種の稼動よりも悪い（ＮＯ）と判断した場合には、稼動の向上を狙って貸与単価を１円に変更するか否かを判断する（Ｓ１１４）。このＳ１１４で貸与単価を１円に変更しない（ＮＯ）と判断した場合には、該変更対象機種を撤去して（Ｓ１１５）、処置を終了する。

【０１１７】

一方、Ｓ１１４で貸与単価を１円に変更する（ＹＥＳ）と判断し、貸与単価を再度１円に変更した場合にも、Ｓ１１１に戻るが、さらに所定期間（例えば１ヶ月）経過後に該Ｓ１１１の検討を行い、Ｓ１１２でＹＥＳである場合には、当該変更対象機種については、貸与単価として４円よりも１円の方が適している（即ち１円ならば稼動が良いが、４円だと稼動が悪い）と判断できる。

10

【０１１８】

また図１５（ｂ）に示すように、導入時に貸与単価が４円と設定された機種については、所定期間（例えば１ヶ月）経過後に、当該機種をターゲット機種とした導入後遊技データを検討し（Ｓ２０１）、該ターゲット機種の稼動（即ち期間中平均アウト玉数）が表示条件合致機種の稼動よりも悪いかなかを判断する（Ｓ２０２）。このＳ２０２でターゲット機種の稼動が表示条件合致機種よりも良い（ＮＯ）と判断した場合には、該ターゲット機種を増台するか又はそのままの台数とするかを検討して（Ｓ２０３）、Ｓ２０１に戻る。一方、Ｓ２０２でターゲット機種の稼動が表示条件合致機種よりも悪い（ＹＥＳ）と判断した場合には、稼動の向上を狙って貸与単価を１円に変更するか否かを判断する（Ｓ２０４）。このＳ２０４で貸与単価を１円に変更しない（ＮＯ）と判断した場合には、該ターゲット機種を撤去して（Ｓ２０５）、処置を終了する。

20

【０１１９】

一方、Ｓ２０４で貸与単価を１円に変更する（ＹＥＳ）と判断し、貸与単価を１円に変更した場合には、所定期間（例えば１ヶ月）経過後に、当該機種を変更対象機種とした貸与単価変更後遊技データを検討し（Ｓ２１１）、該変更対象機種の稼動（即ち変更後遊技データ）が他機種の稼動（即ち平均遊技データ）よりも悪いかなかを判断する（Ｓ２１２）。このＳ２１２で変更対象機種の稼動が他機種の稼動よりも悪い（ＹＥＳ）と判断した場合には、該変更対象機種を撤去して（Ｓ２１３）、処置を終了する。

30

【０１２０】

具体的には、図１４（ａ）に示すように、１回目の変更履歴として４円から１円への変更が表示されているケース１がこの例に該当し、導入時に貸与単価が４円と設定された機種Ｓについて、稼動が悪かったので、稼動の向上を狙って、１回目の変更で貸与単価を４円から１円に変更したところ、該１回目の変更後における当該変更対象機種の変更後遊技データ（ここでは３８２）が他機種の平均遊技データ（ここでは４７５）よりも悪いので、当該機種Ｓについては、稼動の向上が見込めず、撤去すべきであると判断できる。つまり貸与単価変更の履歴を参照することにより、変更対象機種の取り扱い方を適切に検討することができる。

【０１２１】

40

一方、Ｓ２１２で変更対象機種の稼動が他機種の稼動よりも良い（ＮＯ）と判断した場合には、売上の向上を狙って貸与単価を４円に変更するか否かを判断する（Ｓ２１４）。このＳ２１４で貸与単価を４円に変更しない（ＮＯ）と判断した場合には、該変更対象機種を増台するか又はそのままの台数とするかを検討して（Ｓ２１５）、Ｓ２１１に戻る。

【０１２２】

一方、Ｓ２１４で貸与単価を４円に変更する（ＹＥＳ）と判断し、貸与単価を４円に変更した場合にも、Ｓ２１１に戻るが、さらに所定期間（例えば１ヶ月）経過後に該Ｓ２１１の検討を行い、Ｓ２１２でＹＥＳである場合には、当該変更対象機種については、４円よりも１円の方が貸与単価として適している（即ち１円ならば稼動が良いが、４円だと稼動が悪い）と判断できるので、貸与単価を再び１円に変更するか、あるいは売上の向上が

50

見込めないので、前記 S 2 1 3 と同様に撤去をする処置を行う。

【 0 1 2 3 】

具体的には、図 1 4 (b) に示すように、1 回目の変更履歴として 4 円から 1 円への変更が表示され、2 回目の変更履歴として 1 円から 4 円への変更が表示されているケース 2 がこの例に該当し、導入時に貸与単価が 4 円と設定された機種 E について、稼動が悪かったので、稼動の向上を狙って、1 回目の変更で貸与単価を 4 円から 1 円に変更した後 (S 2 0 4)、稼動が向上したので、売上の向上を狙って、2 回目の変更で貸与単価を 1 円から再度 4 円に変更したところ (S 2 1 4 で Y E S)、該 2 回目の変更後における当該変更対象機種の変更後遊技データ (ここでは 3 8 7) が他機種の平均遊技データ (ここでは 4 9 8) よりも悪いので、当該機種 E については、4 円よりも 1 円の方が貸与単価として適

10

【 0 1 2 4 】

[2 . 本発明の変形例]

次に、本発明の変形例について説明する。

【 0 1 2 5 】

上記の実施形態では、図 1 及び図 2 (b) に示すように、カードユニット 2 0 において、貨幣として紙幣を受け付けて入金処理が行われる例について説明したが、これに限らず、貨幣として紙幣及び / 又は硬貨を受け付けて入金処理が行われるようにしても良い。また貨幣は、紙幣や硬貨のような実物以外にも、例えば電子マネーカードにより使用可能な

20

【 0 1 2 6 】

上記の実施形態では、プリペイドカード 2 が、IC チップにより情報を記録する IC カードである例について説明したが、該プリペイドカード 2 は、接触式の集積回路、磁気ストライプ、二次元コード (例えばバーコード)、三次元コード、又は光干渉 (例えばホログラム) 等により情報を記録するものでも良い。またプリペイドカード 2 の形状はカード型には限られず、コイン型であっても良い。

【 0 1 2 7 】

上記の実施形態では、プリペイドカード 2 の IC チップにプリペイド残額が記録されていない例について説明したが、これに限らず、該プリペイドカード 2 の IC チップにプリペイド残額が記録されていても良く、この場合には、残額管理装置 4 0 を設けないようにしても良い。

30

【 0 1 2 8 】

上記の実施形態では、図 1 に示すように、遊技機がパチンコ機 1 0 である例について説明したが、これに限らず、該遊技機は、例えば遊技媒体としてメダルを使用するスロットマシン、遊技媒体としてパチンコ玉を使用するスロットマシンであるパロット (登録商標)、遊技媒体であるパチンコ玉が指触不能に封入された封入式のパチンコ機、パチンコ玉やメダルを用いることなく遊技媒体である得点データを使用して遊技可能なパチンコ機やスロットマシン、遊技領域やパチンコ玉が画像にて表示される画像式のパチンコ機、リールが画像にて表示される画像式のスロットマシン等であっても良い。

40

【 0 1 2 9 】

上記の実施形態では、玉貸処理が行われた場合に、遊技用装置 (カードユニット 2 0) と遊技機 (パチンコ機 1 0) との間でパチンコ玉の貸与に関する信号のやり取りが行われて、該遊技機に設けられた玉払出装置 1 3 からパチンコ玉が払い出されて貸与される例について説明したが、これに限らず、遊技用装置に設けられた図示しない玉払出装置からパチンコ玉が払い出されて貸与されるようにしても良い。

【 0 1 3 0 】

上記の実施形態では、図 3 の D 1 1 に示すように、導入台数の入力欄が設けられる例について説明したが、これに限らず、該導入台数の入力欄を設けずに、台番号の入力欄に入

50

力された台番号から導入台数が特定されて、該特定された導入台数が設定されるようにしても良い。

【0131】

上記の実施形態では、図4に示すように、導入時期として、年末年始、ゴールデンウィーク、又はお盆を設定可能である例について説明したが、これに限らず、該導入時期として、導入された月（1月～12月のいずれか）や四季（春、夏、秋、又は冬のいずれか）を設定できるようにしても良い。また上記の実施形態では、図3のD11に示すように、導入時期が、オペレータの選択により設定される例について説明したが、これに限らず、導入日と導入時期との対応関係を予め記憶しておき、導入日の入力欄に入力された導入日に対応する導入時期が自動的に設定されるようにしても良い。

10

【0132】

上記の実施形態では、図5に示すように、貸与単価を機種毎に設定・変更する例について説明したが、これに限らず、該貸与単価を遊技島毎又は遊技機毎に設定・変更するものであっても良い。即ち上記の実施形態の如く貸与単価を機種毎に設定・変更したり、本変形例の如く貸与単価を遊技島毎に設定・変更しても、結果的には各機種に属する遊技機や各遊技島に配置されている遊技機の各々について貸与単価を設定・変更していることになる。

【0133】

上記の実施形態では、図6に示すように、貸与単価が、1円と4円の2種類である例について説明したが、これに限らず、該貸与単価は、別の2種類（例えば2円と4円）であっても良く、また3種類以上であっても良い。

20

【0134】

上記の実施形態では、図6に示すように、貸与単価変更の履歴が2回まで管理される例について説明したが、これに限らず、該貸与単価変更の履歴が3回以上管理されるようにしても良い。

【0135】

上記の実施形態では、図10及び図13に示すように、現在から所定年数前まで設置されていた過去設置機種を抽出対象として設定可能である例について説明したが、これに限らず、例えば○年～○年まで設置されていた過去設置機種を抽出対象として設定可能であるようにしても良い。

30

【0136】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データ及び図14に示す貸与単価変更後遊技データとして、アウト玉数が出力される例について説明したが、これに限らず、これら遊技データとして、セーフ玉数、スタート回数、又は売上金額が出力されるようにしても良い。即ち、これら出力される遊技データは、遊技機の稼働を示すデータであれば良い。

【0137】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データ及び図14に示す貸与単価変更後遊技データを出力する出力手段が、これら遊技データを表示するディスプレイ53である例について説明したが、これに限らず、該出力手段は、これら遊技データを印刷して出力するプリンタや、これら遊技データを記録媒体に記録する記録手段や、これら遊技データを送信する送信手段等であっても良い。即ち出力手段は、これら遊技データを出力するものであれば良い。

40

【0138】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データとして、遊技場に導入されてからの経過期間が0日で同一である遊技データ（即ち導入日からの遊技データ）が出力される例について説明したが、これに限らず、該経過期間が所定日数（例えば7日間）で同一である遊技データ（即ち導入日から7日間が経過した後の8日目以降の遊技データ）が出力されるものであっても良く、これによれば、一般的に遊技データが極めて良くなる導入日から所定日数の遊技データを除き、該遊技データが比較的安定する所定日数経過後の遊技

50

データが出力されるので、該安定した遊技データに基づいて比較を行うことができる。この場合において、該所定日数経過後の遊技データとして、該所定日数経過後の遊技データ集計期間（図10のD41やD42）分の遊技データを出力するものであっても良く、また該所定日数経過後の次の日の遊技データを出力するものであっても良い。

【0139】

上記の実施形態において、「遊技場に導入されてからの経過期間」とは、遊技機が遊技場に導入されて遊技場に配置され実際に稼動を開始する日である導入日（つまり図3のD11で入力された導入日）を基準とする経過期間であり、該導入日を導入情報DBで設定した日を基準とする経過期間ではない。即ち実際の導入日が12月1日である場合において、該導入日を11月29日や12月3日に導入情報DBで設定したとしても、実際の導入日が経過期間の基準とされる。なお実際の導入日（例えば12月1日）を経過期間の基準とするのではなく、導入情報DBにおける設定日を経過期間の基準としても良い。ただし、この場合において、実際の導入日の営業前に導入情報DBを設定すれば問題ないが、実際の導入日よりも事後的（例えば12月3日）に導入情報DBを設定すると、実際の導入日から事後的な設定日の前日まで（ここでは12月1日及び2日）の遊技データが導入後遊技データからは除かれることになるので、実際の導入日を基準とするのが好ましい。

【0140】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データ（即ち複数機種の遊技データ）として、各機種に属する全遊技機の遊技データ（アウト玉数）の合算値を各機種の台数で除算した平均アウト玉数が出力される例について説明したが、これに限らず、各機種に属する全遊技機の遊技データを平均せずにそのまま出力するものであっても良い。

【0141】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データとして、第1期間、第2期間、及び第3期間の3つの所定期間毎に集計された遊技データ（アウト玉数）が出力される例について説明したが、これに限らず、該所定期間の数は、2つであっても良く、また4つ以上であっても良い。

【0142】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データとして、所定期間（ここでは第1期間、第2期間、及び第3期間）毎に集計された遊技データ（アウト玉数）が出力される例について説明したが、これに限らず、最初の所定期間のみの遊技データが出力されるものであっても良い。

【0143】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データとして、所定期間分のアウト玉数を平均した期間中平均アウト玉数が出力される例について説明したが、これに限らず、該所定期間分の各日毎のアウト玉数が出力されるようにしても良い。

【0144】

上記の実施形態では、図11に示す導入後遊技データとして、第2期間における減少率と、第3期間における減少率とが、算出及び出力される例について説明したが、これに限らず、前者のみ又は後者のみが算出及び出力されるようにしても良い。即ち遊技データ比率算出手段は、最初の所定期間（第1期間）における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間（第2期間、又は第3期間）における遊技データの比率を算出するものであれば良い。

【0145】

上記の実施形態では、図14に示す貸与単価変更後遊技データとして、変更対象機種の貸与単価変更からの経過期間と他の機種の貸与単価が変更対象機種と同一の貸与単価になってからの経過期間とが0日で同一である変更後遊技データと平均遊技データ（即ち変更対象機種について貸与単価の変更日からの変更後遊技データと、他の機種について当該貸与単価になった日からの平均遊技データ）が出力される例について説明したが、これに限らず、該経過期間が所定日数（例えば7日間）で同一である遊技データ（即ち変更対象機種について貸与単価の変更日から7日間が経過した後の8日目以降の変更後遊技データと

、他の機種について当該貸与単価になった日から7日間が経過した後の8日目以降の平均遊技データ）が出力されるものであっても良く、これによれば、一般的に遊技データが変動が大きくなる貸与単価変更日から所定日数の遊技データを除き、該遊技データが比較的安定する所定日数経過後の遊技データが出力されるので、該安定した遊技データに基づいて比較を行うことができる。

【0146】

上記の実施形態において、「貸与単価変更前の変更前遊技データ」及び「貸与単価変更後の変更後遊技データ」とは、実際に貸与単価が変更される変更日（つまり図5のD24で入力された変更日）を基準とする遊技データであり、該変更日を貸与単価DBで設定した日を基準とする遊技データではない。即ち実際の変更日が12月1日である場合において、該変更日を11月29日や12月3日に貸与単価DBで設定したとしても、変更前遊技データは実際の変更日の前日より前の遊技データであり、変更後遊技データは実際の変更日より後の遊技データである。なお実際の変更日（例えば12月1日）を基準とするのではなく、貸与単価DBにおける事後的な設定日を基準としても良い。ただし、この場合において、実際の変更日の営業前に貸与単価DBを設定すれば問題ないが、実際の変更日より事後的（例えば12月3日）に貸与単価DBを設定すると、実際の変更日から事後的な設定日の前日まで（ここでは12月1日及び2日）の遊技データが、変更前遊技データに含まれる一方、変更後遊技データからは除かれることになるので、実際の変更日を基準とするのが好ましい。

10

【0147】

上記の実施形態において、「変更対象遊技機の貸与単価変更からの経過期間」及び「他の遊技機の貸与単価が該変更対象遊技機と同一の貸与単価になってからの経過期間」とは、前者においては実際に貸与単価が変更される変更日（つまり図5のD24で入力された変更日）を基準する経過期間、後者においては実際に当該同一の貸与単価で稼動を開始する日である導入日又は変更日（つまり図5のD22で表示された導入日又はD24で入力された変更日）を基準とする経過期間であり、これら変更日や導入日を貸与単価DBで設定した日を基準とする経過期間ではない。即ち実際の変更日や導入日が12月1日である場合において、該変更日や導入日を11月29日や12月3日に貸与単価DBで設定したとしても、実際の変更日や導入日が経過期間の基準とされる。なお実際の変更日や導入日（例えば12月1日）を経過期間の基準とするのではなく、貸与単価DBにおける事後的な設定日（例えば12月3日）を経過期間の基準としても良い。ただし、この場合において、実際の変更日や導入日の営業前に貸与単価DBを設定すれば問題ないが、実際の変更日や導入日より事後的（例えば12月3日）に貸与単価DBを設定すると、実際の変更日や導入日から事後的な設定日の前日まで（ここでは12月1日及び2日）の遊技データが、変更前遊技データに含まれる一方、変更後遊技データ及び平均遊技データからは除かれることになるので、実際の変更日や導入日を基準とするのが好ましい。

20

30

【0148】

上記の実施形態では、図14に示す貸与単価変更後遊技データとして、図13のD51で設定された遊技データ集計期間分の変更後遊技データ及び平均遊技データが出力される例について説明したが、これに限らず、図11に示す導入後遊技データと同様に、前記遊技データ集計期間毎に（つまり第1期間、第2期間、及び第3期間の各々について）集計された変更後遊技データ及び平均遊技データが出力されるようにしても良い。

40

【0149】

上記の実施形態では、図14に示す貸与単価変更後遊技データとして、所定期間分のアウト玉数を平均した期間中平均アウト玉数が出力される例について説明したが、これに限らず、該所定期間分の各日毎のアウト玉数が出力されるようにしても良い。

【0150】

上記の実施形態では、図14に示すように、変更前遊技データとして、変更後遊技データ及び平均遊技データと同一の所定期間分の貸与単価変更前の遊技データを平均した変更前遊技データが出力される例について説明したが、これに限らず、変更後遊技データ及び

50

平均遊技データとは異なる期間分の貸与単価変更前の遊技データを平均した変更前遊技データが出力されるようにしても良い。例えば変更前遊技データとして、貸与単価変更前の全期間の遊技データを平均した変更前遊技データが出力されるようにしても良い。

【 0 1 5 1 】

上記の実施形態では、図 1 4 に示すように、変更対象機種を除いた他の機種の遊技データを平均した平均遊技データが出力される例について説明したが、これに限らず、該他の機種の遊技データに変更対象機種の遊技データも含めて平均した平均遊技データが出力されるようにしても良い。即ち平均遊技データは、少なくとも変更対象機種と同一の貸与単価が設定されている他の機種の遊技データを平均したものであれば良い。

【 0 1 5 2 】

[3 . 実施形態に記載した発明]

最後に、上記の実施形態に記載した発明に対応する「従来技術」，「発明が解決しようとする課題」，及び「発明の効果」を説明する。

【 0 1 5 3 】

[3 - 1 . 第 1 の発明]

まず、従来技術 1 として、特開 2 0 0 5 - 2 2 4 4 2 4 号公報（図 7、請求項 1）を示す。この従来技術 1 には、遊技場に設置されている各遊技機の遊技データを管理し、該遊技データを、各遊技機が遊技場に導入された日から所定期間経過した時点で機種毎に集計し、該集計した集計データのうち、各遊技機が遊技場に導入された日から同じ期間経過した時点の集計データを各機種間で比較可能に出力する管理装置が記載されている。これによれば、集計データが、遊技機が遊技場に導入された日を揃えて所定期間を単位として各機種間で比較可能に出力されるので、あたかも新機種が同時に導入されたのと同じ条件で比較することができる。

【 0 1 5 4 】

しかしながら、遊技場に導入する機種によって、該導入に関わる状況（例えば導入台数や導入シーズン等）は様々であり、上記従来技術 1 に示す管理装置は、該導入に関わる状況を加味せずに、集計データを各機種間で比較可能に出力するため、該集計データを適切に比較することができないという第 1 の問題があった。

【 0 1 5 5 】

そこで、上記の実施形態に記載した第 1 の発明では、前記第 1 の問題を解決するために、遊技場に設置されている遊技機（パチンコ機 1 0）での遊技に関わる遊技データ（アウト玉数）を管理する遊技データ管理手段（遊技情報 DB）と、該遊技データ管理手段で管理している遊技データに基づき、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における複数機種の遊技データ（複数機種の各導入日からの遊技データ）を、当該複数の機種間で比較可能に出力する出力手段（ディスプレイ 5 3）と、を有する管理装置（ホールコンピュータ 5 0）であって、各機種毎に、各機種の導入に関わる導入データ（導入台数、スペック、メーカー、導入時期）を管理する導入データ管理手段（導入情報 DB）と、該導入データ管理手段で管理している導入データが同一及び／又は近似している機種を抽出する抽出手段（制御部 5 2）と、をさらに有し、前記出力手段は、前記同一の期間における遊技データを、前記抽出手段により抽出された機種について比較可能に出力することを特徴とする管理装置を構成した。これによれば、各機種の導入に関わる導入データが同一及び／又は近似している機種について、遊技場に導入されてからの経過期間が同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを適切に比較することができる。

【 0 1 5 6 】

また前記第 1 の発明において、前記導入データ管理手段（導入情報 DB）は、前記導入データとして、各機種の導入台数を管理し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該導入データ管理手段で管理している導入台数が同一及び／又は近似している機種を抽出することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、各機種の導入台数が同一及び／又は近似している機種について、前記同一の期間における遊技デー

10

20

30

40

50

タが比較可能に出力されるので、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入台数の参考とすることができる。

【 0 1 5 7 】

また前記第 1 の発明において、前記導入データ管理手段（導入情報 DB）は、前記導入データとして、各機種の導入時期を管理し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該導入データ管理手段で管理している導入時期が同一である機種を抽出することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、各機種の導入時期が同一である機種について、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、該遊技データを比較して、新たな遊技機を導入する際の導入時期の参考とすることができる。

10

【 0 1 5 8 】

また前記第 1 の発明において、遊技場で開催されるイベントについて、該イベントが開催されるイベント期間を設定するイベント期間設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、前記同一の期間における遊技データ（導入日からの遊技データ）からイベント期間中における遊技データを除外するイベントを設定する除外イベント設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該除外イベント設定手段により設定されたイベントのイベント期間中における遊技データを除外して、前記同一の期間における遊技データを出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、除外イベントのイベント期間中における遊技データを除外して、前記同一の期間における遊技データが比較可能に出力されるので、イベントの影響を受けていない遊技データに基づいて、より適切な比較を行うことができる。

20

【 0 1 5 9 】

また前記第 1 の発明において、各機種毎に、遊技場に現在設置されている現在設置機種であるか、あるいは過去に設置されていた過去設置機種であるかを管理する設置状況管理手段（導入情報 DB）と、前記抽出手段（制御部 5 2）による抽出対象を、前記現在設置機種のみとするか、あるいは前記現在設置機種及び前記過去設置機種とするかを設定する抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記抽出手段は、該抽出対象設定手段により設定された抽出対象から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、前記同一の期間における遊技データを出力する機種として、現在設置機種のみを抽出対象とするか、あるいは現在設置機種及び過去設置機種を抽出対象とするかを設定することができるので、遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

30

【 0 1 6 0 】

また前記第 1 の発明において、前記設置状況管理手段（導入情報 DB）は、前記過去設置機種が設置されていた設置期間（導入日及び撤去日）を管理し、前記抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）は、抽出対象とする過去設置機種の設置期間を設定し、前記抽出手段（制御部 5 2）は、該抽出対象設定手段により設定された設置期間に設置されていた過去設置機種から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、抽出対象とする過去設置機種の設置期間を設定することができるので、より遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

40

【 0 1 6 1 】

さらに前記第 1 の発明において、各機種について、遊技場に導入されてから所定期間毎の遊技データを集計する遊技データ集計手段（制御部 5 2）と、遊技場に導入されてから最初の所定期間における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間における遊技データの比率を算出する遊技データ比率算出手段（制御部 5 2）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該遊技データ比率算出手段により算出された比率が遊技データの低下を示す機種について、当該比率を比較可能に出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、最初の所定期間における遊技データに対する、当該最初の所定期間以外の所定期間における遊技データの

50

比率が、該遊技データの低下を示す機種について、当該比率が比較可能に出力されるので、遊技機の入替等の参考とすることができる。

【 0 1 6 2 】

[3 - 2 . 第 2 の 発 明]

また、従来技術 2 として、特開平 1 1 - 1 0 4 3 3 1 号公報（図 1 6，図 1 7、請求項 1，2）を示す。この従来技術 2 には、通路を挟んで対面する遊技機を一単位とするコース毎、あるいは 1 つの遊技島に設置される遊技機を一単位とする遊技島毎に、遊技機での遊技に使用される遊技媒体の貸与単価を設定可能な管理装置が記載されている。

【 0 1 6 3 】

このように遊技媒体の貸与単価を設定した後に、該設定した貸与単価の遊技機における遊技データに基づいて、貸与単価の変更を行う場合があるが、上記従来技術 2 に示す管理装置では、貸与単価の変更による遊技データの変化を把握することができないと共に、貸与単価変更後の遊技データの良し悪しを把握することができないという第 2 の問題があった。

【 0 1 6 4 】

そこで、上記の実施形態に記載した第 2 の発明では、前記第 2 の問題を解決するために、遊技場に設置されている遊技機（パチンコ機 1 0）での遊技に関わる遊技データ（アウト玉数）を管理する遊技データ管理手段（遊技情報 DB）と、遊技機での遊技に使用される遊技媒体（パチンコ玉）の貸与単価を各遊技機について設定変更する貸与単価設定変更手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、該貸与単価設定変更手段により貸与単価が変更されたことに基づいて、該変更が行われた変更対象遊技機の貸与単価変更前の変更前遊技データ及び貸与単価変更後の変更後遊技データと、少なくとも前記変更対象遊技機と同一の貸与単価が設定されている他の遊技機の遊技データを平均した平均遊技データとを比較可能に出力する出力手段（ディスプレイ 5 3）と、を有することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）を構成した。これによれば、貸与単価の変更が行われた変更対象遊技機の貸与単価変更前の変更前遊技データと貸与単価変更後の変更後遊技データとが比較可能に出力されるので、貸与単価の変更による変更対象遊技機の遊技データの変化を把握することができると共に、少なくとも変更対象遊技機と同一の貸与単価が設定されている他の遊技機の遊技データを平均した平均遊技データも比較可能に出力されるので、変更対象遊技機の変更後遊技データの良し悪しを他の遊技機との比較で把握することができる。

【 0 1 6 5 】

また前記第 2 の発明において、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、前記変更対象遊技機の貸与単価変更からの経過期間と前記他の遊技機の貸与単価が該変更対象遊技機と同一の貸与単価になってからの経過期間とが同一の期間における、前記変更後遊技データと前記平均遊技データとを比較可能に出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、変更対象遊技機の貸与単価変更からの経過期間と他の遊技機の貸与単価が該変更対象遊技機と同一の貸与単価になってからの経過期間とが同一の期間における変更後遊技データと平均遊技データとが比較可能に出力されることにより、変更対象遊技機の変更後遊技データと他の遊技機の平均遊技データとを、あたかも貸与単価が同時に同一になったようにして比較することができるので、適切な比較を行うことができる。

【 0 1 6 6 】

また前記第 2 の発明において、各遊技機（パチンコ機 1 0）毎に、遊技機に関わる遊技機データ（スペック，メーカ，台数）を管理する遊技機データ管理手段（導入情報 DB 及び単価情報 DB）と、前記変更対象遊技機と同一の貸与単価が設定されており、かつ該変更対象遊技機と遊技機データが同一及び／又は近似している遊技機を抽出する抽出手段（制御部 5 2）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該抽出手段により抽出された遊技機の遊技データを平均した前記平均遊技データを出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、変更対象遊技機

と遊技機データが同一及び／又は近似している遊技機の遊技データを平均した平均遊技データが出力されるので、より適切に変更対象遊技機の変更後遊技データの良し悪しを把握することができる。

【 0 1 6 7 】

また前記第 2 の発明において、各遊技機（パチンコ機 1 0）毎に、遊技場に現在設置されている現在設置遊技機であるか、あるいは過去に設置されていた過去設置遊技機であるかを管理する設置状況管理手段（導入情報 DB）と、前記抽出手段（制御部 5 2）による抽出対象を、前記現在設置遊技機のみとするか、あるいは前記現在設置遊技機及び前記過去設置遊技機とするかを設定する抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記抽出手段は、該抽出対象設定手段により設定された抽出対象から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、平均遊技データを出力する遊技機として、現在設置遊技機のみを抽出対象とするか、あるいは現在設置遊技機及び過去設置遊技機を抽出対象とするかを設定することができるので、遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

10

【 0 1 6 8 】

また前記第 2 の発明において、前記設置状況管理手段（導入情報 DB）は、前記過去設置遊技機が設置されていた設置期間（導入日及び撤去日）を管理し、前記抽出対象設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）は、抽出対象とする過去設置遊技機の設置期間を設定し、前記抽出手段は、該抽出対象設定手段により設定された設置期間に設置されていた過去設置遊技機から前記抽出を行うことを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、抽出対象とする過去設置遊技機の設置期間を設定することができるので、より遊技場側の意向に添った比較を行うことができる。

20

【 0 1 6 9 】

また前記第 2 の発明において、遊技場で開催されるイベントについて、該イベントが開催されるイベント期間を設定するイベント期間設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、前記変更前遊技データ、前記変更後遊技データ、及び前記平均遊技データからイベント期間中における遊技データを除外するイベントを設定する除外イベント設定手段（ディスプレイ 5 3 及び入力装置 5 4）と、をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該除外イベント設定手段により設定されたイベントのイベント期間中における遊技データを除外して、前記変更前遊技データ、前記変更後遊技データ、及び前記平均遊技データを出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、除外イベントのイベント期間中における遊技データを除外して、変更前遊技データ、変更後遊技データ、及び平均遊技データが比較可能に出力されるので、イベントの影響を受けていない遊技データに基づいて、より適切な比較を行うことができる。

30

【 0 1 7 0 】

さらに前記第 2 の発明において、各遊技機（パチンコ機 1 0）の貸与単価変更の履歴を管理する変更履歴管理手段（単価情報 DB）をさらに有し、前記出力手段（ディスプレイ 5 3）は、該変更履歴管理手段で管理している前記変更対象遊技機の貸与単価変更の履歴と共に、前記変更前遊技データ、前記変更後遊技データ、及び前記平均遊技データを出力することを特徴とする管理装置（ホールコンピュータ 5 0）としても良い。これによれば、変更対象遊技機の貸与単価変更の履歴と共に、変更前遊技データ、変更後遊技データ、及び平均遊技データが出力されるので、変更対象遊技機の取り扱い方を適切に検討することができる。

40

【 符号の説明 】

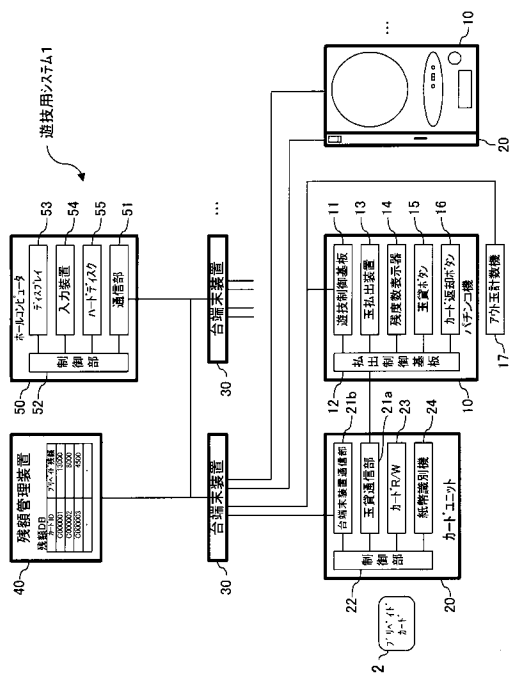
【 0 1 7 1 】

- 1 ... 遊技用システム
- 1 0 ... パチンコ機
- 2 0 ... カードユニット
- 5 0 ... ホールコンピュータ
- 5 1 ... 通信部

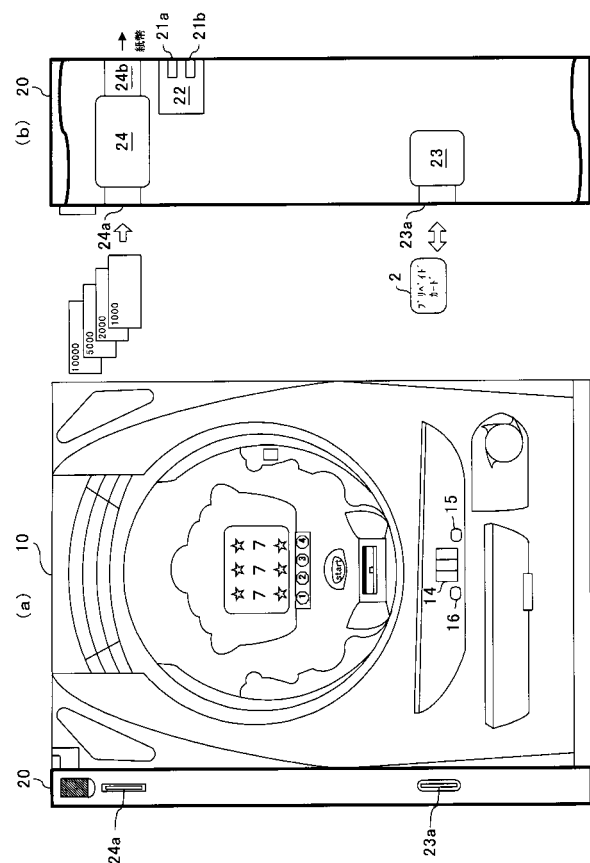
50

- 5 2 ... 制御部
- 5 3 ... ディスプレイ
- 5 4 ... 入力装置
- 5 5 ... ハードディスク

【図 1】



【図 2】



【図 3】

導入情報設定画面

D10

☒ 導入情報
☐ 撤去情報

D11

遊技機ID ~
台番号 ~
機種
導入日
導入台数
導入時期 ▼
スペック ▼
メーカー

撤去情報

D12

機種 U ▼
撤去日

【図 5】

貸与単価設定変更画面

D20

☒ 貸与単価設定
☐ 貸与単価変更

D21

貸与単価設定▼ 貸与単価変更▼

機種 U ▼

D22

設定貸与単価 ☒ 4円
☐ 1円
導入日 2007/11/01
導入台数 16

D23

機種 Q ▼

D24

現在貸与単価 4円
変更後貸与単価 1円
変更日
現在台数 16
変更後台数

【図 4】

導入情報DB

2007/11/30現在

機種	導入日	導入台数	導入時期	スペック	メーカー	設置状況	撤去日
A	2006/12/23	12	年末年始	甘デジ機	甲	過去	2007/03/31
B	2006/12/23	32	年末年始	爆裂機	乙	現在	—
C	2007/01/05	8	年末年始	甘デジ機	丁	過去	2007/03/31
D	2007/03/01	36	—	爆裂機	丙	現在	—
E	2007/05/01	12	G.W	爆裂機	甲	現在	—
P	2007/08/15	16	お盆	爆裂機	甲	過去	2007/10/31
Q	2007/08/15	16	お盆	爆裂機	丙	現在	—
S	2007/09/01	16	—	甘デジ機	丙	現在	—
T	2007/10/15	8	—	甘デジ機	丁	現在	—
U	2007/11/01	16	—	甘デジ機	乙	現在	—

【図 6】

貸与単価DB

2007/11/30現在

機種	現在貸与単価	現在台数	初期設定	貸与単価	導入日	1回目変更	2回目変更
A	1円	8	4円	1円	2006/12/23	2007/03/01	—
B	4円	32	4円	1円	2006/12/23	2007/03/01	—
C	4円	8	4円	4円	2007/01/05	2007/02/15	—
D	4円	36	4円	1円	2007/03/01	2007/02/15	—
E	4円	8	4円	1円	2007/05/01	2007/02/01	2007/08/01
P	1円	8	4円	1円	2007/08/15	2007/10/01	—
Q	1円	16	4円	4円	2007/08/15	2007/10/01	2007/11/01
S	1円	16	4円	1円	2007/09/01	2007/10/01	—
T	1円	8	4円	1円	2007/10/15	2007/11/01	—
U	4円	16	4円	1円	2007/11/01	—	—

【図 7】

イベント情報設定画面

D30

イベントID
イベント名
イベント期間 ~

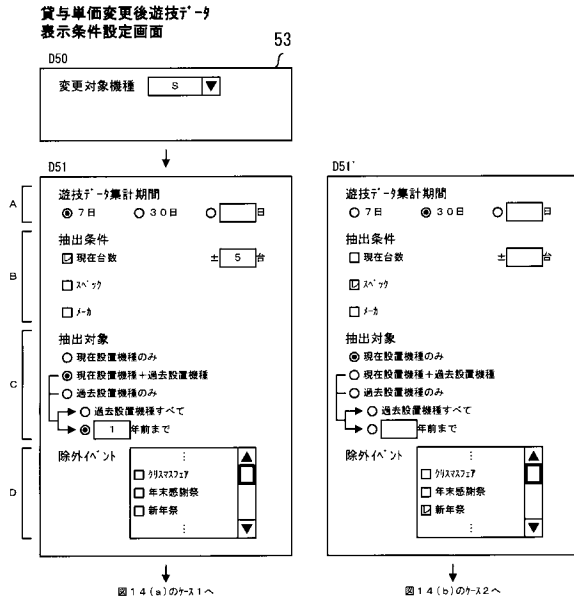
【図 8】

イベント情報DB

2007/11/30現在

イベントID	イベント名	開始日	終了日
061223	クリスマス	2006/12/23	2006/12/25
061229	年末感謝祭	2006/12/29	2006/12/31
070101	新年祭	2007/01/01	2007/01/07
070401	創業祭	2007/04/01	2007/04/01
070415	さくら祭り	2007/04/15	2007/04/21
070508	新緑祭	2007/05/08	2007/05/15
071125	収穫祭	2007/11/25	2007/11/30

【図 13】



【図 14】

貸与単価変更後遊技ゲーム

(a) ケース1

機種	ゲーム種別	1回目変更
S	貸与単価の変更日	2007/11/01
	貸与単価変更の履歴	4円→1円
	変更対象機種の変更前遊技ゲーム (変更前7日間分の平均ゲーム数)	174
	変更対象機種の変更後遊技ゲーム (変更後7日間分の平均ゲーム数)	382
P, T	他の機種の前平均遊技ゲーム (設定後7日間分の平均ゲーム数)	475

(b) ケース2

機種	ゲーム種別	1回目変更	2回目変更
E	貸与単価の変更日	2007/07/01	2007/08/01
	貸与単価変更の履歴	4円→1円	1円→4円
	変更対象機種の変更前遊技ゲーム (変更前30日間分の平均ゲーム数)	—	247
	変更対象機種の変更後遊技ゲーム (変更後30日間分の平均ゲーム数)	—	387
B, D	他の機種の前平均遊技ゲーム (設定後30日間分の平均ゲーム数)	—	498

【図 15】

